

(様式第10)

愛大医総第254 号

令和 4 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

開設者名 国立大学法人愛媛大学

学長 仁科 弘重

愛媛大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒790-8577 松山市道後樋又10番13号
氏名	国立大学法人愛媛大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

愛媛大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒791-0295 東温市志津川454
電話(089)964-1111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科	○	4心臓外科
○	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	膠原病・リウマチ内科	2	高血圧内科	3	アレルギー内科	4	糖尿病内科	5	老年内科
6	薬物療法内科	7	総合診療科	8	消化器腫瘍外科	9	食道・胃・大腸外科	10	内視鏡外科
11	肝胆膵・移植外科	12	乳腺・内分泌外科	13	形成外科	14	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	15	病理診断科
16	リハビリテーション科	17	臨床検査科	18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40	2	-	-	602	644

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	234	229	408.9
歯科医師	8	9	14.2
薬剤師	47	1	47.2
保健師	0	0	0
助産師	16	0	16
看護師	669	27	686.1
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	7	0	7
管理栄養士	11	1	11.5

職種	員数
看護補助者	54
理学療法士	13
作業療法士	5
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学士	19
栄養士	0
歯科技工士	2
診療放射線技師	33

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	49
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	10
その他の技術員	14
事務職員	185
その他の職員	30

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	54	眼科専門医	16
外科専門医	46	耳鼻咽喉科専門医	16
精神科専門医	12	放射線科専門医	26
小児科専門医	26	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	17
泌尿器科専門医	10	麻酔科専門医	10
産婦人科専門医	13	救急科専門医	9
		合計	272

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (杉山 隆) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

平成27年4月1日に産婦人科の教授に就任後、診療科長として医療安全管理委員会の委員となり、令和3年4月1日に病院長に就任し、病院長に就任後は医療安全管理委員会の委員長を務めている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	472.9 人	12.7 人	485.6 人
1日当たり平均外来患者数	1213.3 人	62.2 人	1275.5 人
1日当たり平均調剤数		889	剤
必要医師数		119.78	人
必要歯科医師数		4.7	人
必要薬剤師数		17	人
必要(准)看護師数		287	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要	
集中治療室	431 m ²	鉄筋コンクリート	病床数 22 床 人工呼吸装置 有 その他の救急蘇生装置 有	心電計 有 心細動除去装置 有 ペースメーカー 有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 294 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数 15 床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 20 m ² [共用室の場合] 共用する室名			
化学検査室	392 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動蛍光抗体法分析装置 全自動化学発光免疫測定装置
細菌検査室	266 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物感受性分析装置 リアルタイム濁度測定装置
病理検査室	175 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	液状化検体細胞診標本作成装置 IHC/ISH自動染色装置
病理解剖室	360 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	剖検台、局所排気装置
研究室	199 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パソコン、プリンタ、顕微鏡
講義室	734 m ²	鉄筋コンクリート	室数 18 室	収容定員 660 人
図書室	99 m ²	鉄筋コンクリート	室数 1 室	蔵書数 879 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	100	%	逆紹介率	57.7	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		13,029		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		7,906		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		673		人
	D: 初診の患者の数		13,707		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
菅 政治	愛媛県立中央病院	○	医療に係る安全管理に 関する識見を有する者	無	1
大熊 伸定	弁護士法人 松山中央弁護士事務所		法律に関する識見を有 する者	無	1
河野 和博	愛媛県難病等患者団体 連絡協議会／愛媛県腎 臓病患者連絡協議会		医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
愛媛大学ホームページの情報公開のページ内に、「附属病院における医療安全管理について」という事項を設け、監査委員会規程及び委員会名簿(選定理由を含む)を公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	29
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	0
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	0
ヒアルロン酸を用いた生理学的精子選択術	0
先進医療の種類合計数	4
扱い患者数合計(人)	29

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数(人)
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0
インターフェロンα皮下投与及びジドブシン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	0
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	0
先進医療の種類合計数	3
扱い患者数の合計(人)	0

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要 該当なし	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	170	オクシビタル・ホーン症候群	0
2	筋萎縮性側索硬化症	14	171	ウイルソン病	4
3	脊髄性筋萎縮症	8	172	低ホスファターゼ症	1
4	原発性側索硬化症	1	173	VATER症候群	0
5	進行性核上性麻痺	2	174	那須・ハコラ病	0
6	パーキンソン病	154	175	ウィーバー症候群	0
7	大脳皮質基底核変性症	8	176	コフィン・ローリー症候群	0
8	ハンチントン病	1	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
9	神経有棘赤血球症	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	179	ウィリアムズ症候群	0
11	重症筋無力症	85	180	ATR-X症候群	0
12	先天性筋無力症候群	0	181	クルーゾン症候群	0
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	100	182	アペール症候群	0
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	17	183	ファイファー症候群	0
15	封入体筋炎	4	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
16	クロウ・深瀬症候群	2	185	コフィン・シリズ症候群	0
17	多系統萎縮症	9	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	37	187	歌舞伎症候群	0
19	ライソゾーム病	5	188	多脾症候群	0
20	副腎白質ジストロフィー	0	189	無脾症候群	0
21	ミトコンドリア病	10	190	鰓耳腎症候群	0
22	もやもや病	36	191	ウェルナー症候群	0
23	プリオン病	1	192	コケイン症候群	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	194	ソトス症候群	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	195	ヌーナン症候群	1
27	特発性基底核石灰化症	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
28	全身性アミロイドーシス	43	197	1p36欠失症候群	0
29	ウルリッヒ病	0	198	4p欠失症候群	0
30	遠位型ミオパチー	0	199	5p欠失症候群	0
31	ベスレムミオパチー	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
32	自己食食空胞性ミオパチー	0	201	アンジェルマン症候群	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
34	神経線維腫症	15	203	22q11.2欠失症候群	0
35	天疱瘡	26	204	エマヌエル症候群	0
36	表皮水疱症	1	205	脆弱X症候群関連疾患	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	4	206	脆弱X症候群	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
39	中毒性表皮壊死症	1	208	修正大血管転位症	2
40	高安動脈炎	20	209	完全大血管転位症	4
41	巨細胞性動脈炎	15	210	単心室症	3
42	結節性多発動脈炎	12	211	左心低形成症候群	0
43	顕微鏡的多発血管炎	51	212	三尖弁閉鎖症	11
44	多発血管炎性肉芽腫症	31	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	32	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
46	悪性関節リウマチ	2	215	ファロー四徴症	24
47	パージャール病	2	216	両大血管右室起始症	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	217	エプスタイン病	2
49	全身性エリテマトーデス	222	218	アルポート症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	89	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
51	全身性強皮症	77	220	急速進行性糸球体腎炎	31
52	混合性結合組織病	54	221	抗糸球体基底膜腎炎	0
53	シェーグレン症候群	79	222	一次性ネフローゼ症候群	11
54	成人スチル病	27	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
55	再発性多発軟骨炎	12	224	紫斑病性腎炎	0
56	ベーチェット病	72	225	先天性腎性尿崩症	0
57	特発性拡張型心筋症	32	226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0
58	肥大型心筋症	19	227	オスラー病	4
59	拘束型心筋症	1	228	閉塞性細気管支炎	1
60	再生不良性貧血	16	229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0
61	自己免疫性溶血性貧血	42	230	肺胞低換気症候群	0
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0
63	特発性血小板減少性紫斑病	30	232	カーニー複合	1
64	血栓性血小板減少性紫斑病	4	233	ウォルフラム症候群	0

4 指定難病についての診療

65	原発性免疫不全症候群	10	234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0
66	IgA腎症	23	235	副甲状腺機能低下症	2
67	多発性嚢胞腎	18	236	偽性副甲状腺機能低下症	0
68	黄色靱帯骨化症	16	237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0
69	後縦靱帯骨化症	73	238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3
70	広範脊柱管狭窄症	4	239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0
71	特発性大腿骨頭壊死症	73	240	フェニルケトン尿症	0
72	下垂体性ADH分泌異常症	15	241	高チロシン血症1型	0
73	下垂体性TSH分泌亢進症	2	242	高チロシン血症2型	0
74	下垂体性PRL分泌亢進症	3	243	高チロシン血症3型	0
75	クッシング病	2	244	メープルシロップ尿症	0
76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0	245	プロピオン酸血症	0
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	20	246	メチルマロン酸血症	1
78	下垂体前葉機能低下症	33	247	イソ甘草酸血症	0
79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0	248	グルコーストランスポーター1欠損症	0
80	甲状腺ホルモン不応症	0	249	グルタル酸血症1型	0
81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3	250	グルタル酸血症2型	0
82	先天性副腎低形成症	0	251	尿素サイクル異常症	0
83	アジソン病	0	252	リジン尿性蛋白不耐症	0
84	サルコイドーシス	56	253	先天性葉酸吸収不全	0
85	特発性間質性肺炎	71	254	ポルフィリン症	0
86	肺動脈性肺高血圧症	10	255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0
87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0	256	筋型糖原病	0
88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3	257	肝型糖原病	0
89	リンパ脈管筋腫症	4	258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0
90	網膜色素変性症	22	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
91	バッド・キアリ症候群	3	260	シトステロール血症	0
92	特発性門脈圧亢進症	0	261	タンジール病	0
93	原発性胆汁性肝硬変	60	262	原発性高カイロミクロン血症	0
94	原発性硬化性胆管炎	7	263	脳腫黄色腫症	0
95	自己免疫性肝炎	0	264	無βリポタンパク血症	0
96	クローン病	63	265	脂肪萎縮症	0
97	潰瘍性大腸炎	119	266	家族性地中海熱	0
98	好酸球性消化管疾患	3	267	高IgD症候群	0
99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0	268	中條・西村症候群	0
100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
101	腸管神経節細胞僅少症	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0	271	強直性脊椎炎	10
103	CFC症候群	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
104	コステロ症候群	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
105	チャージ症候群	0	274	骨形成不全症	0
106	クリオピリン関連周期熱症候群	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
107	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	2	276	軟骨無形成症	0
108	TNF受容体関連周期性症候群	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	2
109	非典型溶血性尿毒症症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
110	ブラウ症候群	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
111	先天性ミオパチー	1	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	7
113	筋ジストロフィー	9	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	283	後天性赤芽球癆	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
116	アトピー性脊髄炎	31	285	ファンコニ貧血	0
117	脊髄空洞症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
118	脊髄髄膜瘤	0	287	エプスタイン症候群	0
119	アイザックス症候群	1	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
120	遺伝性ジストニア	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
121	神経フェリチン症	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	292	総排泄腔外反症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	293	総排泄腔遺残	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
126	ペリー-症候群	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
127	前頭側頭葉変性症	5	296	胆道閉鎖症	2
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	297	アラジール症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	298	遺伝性膀胱炎	0
130	先天性無痛無汗症	0	299	嚢胞性線維症	0
131	アレキサンダー病	0	300	IgG4関連疾患	13
132	先天性核上性球麻痺	0	301	黄斑ジストロフィー	1
133	メビウス症候群	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	303	アッシュヤー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	304	若年発症型両側性感音難聴	1
136	片側巨脳症	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
137	限局性皮質異形成	0	306	好酸球性副鼻腔炎	52
138	神経細胞移動異常症	0	307	カナバン病	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	308	進行性白質脳症	0
140	ドラベ症候群	0	309	進行性ミオクローヌスてんかん	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	310	先天異常症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
144	レノックス・ガスター症候群	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
145	ウエスト症候群	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
146	大田原症候群	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	316	カルニチン回路異常症	5
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	317	三頭酵素欠損症	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	318	シトリン欠損症	0
150	環状20番染色体症候群	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
151	ラスムツェン脳炎	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
152	PCDH19関連症候群	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
156	レット症候群	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	326	大理石骨病	0
158	結節性硬化症	1	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
159	色素性乾皮症	0	328	前眼部形成異常	0
160	先天性魚鱗癬	0	329	無虹彩症	2
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	19	331	特発性多中心性キャスルマン病	5
163	特発性後天性全身性無汗症	4	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
164	眼皮膚白皮症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜炎	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
166	弾性線維性仮性黄色腫	1	335	ネフロン癆	0
167	マルファン症候群	1	336	家族性低βリポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
168	エーラス・ダンロス症候群	1	337	ホモシスチン尿症	0
169	メンケス病	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	129
合計患者数(人)	2,550

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	ハイリスク妊娠管理加算
歯科外来診療環境体制加算2	ハイリスク分娩管理加算
歯科診療特別対応連携加算	後発医薬品使用体制加算2
特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1	病棟薬剤業務実施加算1
特定機能病院入院基本料 精神病棟 13対1	病棟薬剤業務実施加算2
救急医療管理加算	データ提出加算2
超急性期脳卒中加算	入退院支援加算1
診療録管理体制加算2	入退院支援加算 入院時支援加算
医師事務作業補助体制加算1(20対1)	精神疾患診療体制加算
急性期看護補助体制加算25対1(看護補助者5割以上)	特定集中治療室管理料4
看護職員夜間配置加算(12対1(1))	特定集中治療室管理料4 算定上限日数に係る施設基準
看護補助加算2	特定集中治療室管理料4 小児加算
療養環境加算	特定集中治療室管理料4 早期離床・リハビリテーション加算
重症者等療養環境特別加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
無菌治療室管理加算1	新生児特定集中治療室管理料1
無菌治療室管理加算2	新生児治療回復室入院医療管理料
放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	一類感染症患者入院医療管理料
緩和ケア診療加算	小児入院医療管理料2
精神科身体合併症管理加算	小児入院医療管理料2 プレイルーム加算
摂食障害入院医療管理加算	小児入院医療管理料2 無菌治療管理料加算1
栄養サポートチーム加算	小児入院医療管理料2 無菌治療管理料加算2
医療安全対策加算1	
感染対策向上加算1	
指導強化加算	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料の注2	肝炎インターフェロン治療計画料
外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	こころの連携指導料(Ⅱ)
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	薬剤管理指導料
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	医療機器安全管理料1
糖尿病合併症管理料	歯科治療時医療管理料
がん性疼痛緩和指導管理料	在宅患者訪問看護・指導料(悪性腫瘍の患者に対する緩和ケア、褥瘡ケア又は人工肛門ケア及び人工膀胱ケアに係る専門の研修を受けた看護師による場合)
がん患者指導管理料イ	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
がん患者指導管理料ロ	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
がん患者指導管理料ハ	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
がん患者指導管理料ニ	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
外来緩和ケア管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
移植後患者指導管理料(臓器移植後の場合)	遺伝学的検査
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後の場合)	染色体検査の注2に規定する基準
糖尿病透析予防指導管理料	骨髄微小残存病変量測定
小児運動器疾患指導管理料	BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)
婦人科特定疾患治療管理料	BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
一般不妊治療管理料	がんゲノムプロファイリング検査
生殖補助医療管理料1	角膜ジストロフィー遺伝子検査
二次性骨折予防継続管理料1	先天性代謝異常症検査
二次性骨折予防継続管理料3	有床義歯咀嚼機能検査1のイ
外来腫瘍化学療法診療料1	有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼機能検査
連携充実加算	有床義歯咀嚼機能検査2のイ
ニコチン依存症管理料	有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査
療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
がん治療連携計画策定料	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
ハイリスク妊産婦連携指導料1	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	全身MRI撮影加算

検体検査管理加算(Ⅰ)	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
検体検査管理加算(Ⅳ)	外来化学療法加算1
国際標準検査管理加算	無菌製剤処理料
遺伝カウンセリング加算	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
胎児心エコー法	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
ヘッドアップティルト試験	運動器リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算
長期継続頭蓋内脳波検査	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
神経学的検査	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算
補聴器適合検査	がん患者リハビリテーション料
全視野精密網膜電図	リンパ浮腫複合的治療料
ロービジョン検査判断料	歯科口腔リハビリテーション料2
コンタクトレンズ検査料1	精神科作業療法
小児食物アレルギー負荷検査	認知療法・認知行動療法1
内服・点滴誘発試験	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
CT透視下気管支鏡検査加算	医療保護入院等診療料
画像診断管理加算3	硬膜外自家血注入
遠隔画像診断	エタノールの局所注入(甲状腺)
ポジトロン断層撮影及びポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	エタノールの局所注入(副甲状腺)
CT撮影及びMRI撮影	導入期加算1(人工腎臓)
冠動脈CT撮影加算	移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
心臓MRI撮影加算	人工膵臓療法
乳房MRI撮影加算	歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)
頭部MRI撮影加算	加圧根管充填処置3根管以上に係る手術用顕微鏡加算
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術及び人工内耳用材料
歯科技工加算1及び2	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
皮膚悪性腫瘍切除術におけるセンチネルリンパ節加算	
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合)	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)

骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	喉頭形成手術(甲状軟骨固定器具を用いたもの)
椎間板内酵素注入療法	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	
癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)	乳がんセンチネルリンパ節加算1
角結膜悪性腫瘍切除術(眼窩、涙腺)	乳がんセンチネルリンパ節加算2
治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
角膜移植術(内皮移植加算)	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
羊膜移植術	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの))
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
網膜再建術	
経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	
人工中耳植込術	内視鏡下筋層切開術
植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	内視鏡下筋層切開術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
胸腔鏡下弁形成術	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
経カテーテル大動脈弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下弁置換術	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの))	腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
経皮的中心隔心筋焼灼術	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術

両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	腹腔鏡下肝切除術
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(その他のもの)	生体部分肝移植術
	同種死体肝移植術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	内視鏡的小腸ポリープ切除術
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)(小児を対象とする場合)	腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
補助人工心臓	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
小児補助人工心臓	
植込型補助人工心臓(非拍動流型)	腹腔鏡下腎盂形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経皮的下肢動脈形成術	同種死体腎移植術
内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術	生体腎移植術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)	膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	放射線治療専任加算
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	外来放射線治療加算
膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢腫手術(鼠径部切開によるもの)	高エネルギー放射線治療
精巣内精子採取術	1回線量増加加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	強度変調放射線治療(IMRT)
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
腹腔鏡下仙骨腫固定術	体外照射呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	直線加速器による放射線治療(定位放射線治療の場合)
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	保険医療機関間の連携による病理診断
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)	病理診断管理加算1
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	デジタル病理画像による病理診断
胎児胸腔・羊水腔シャント術	悪性腫瘍病理組織標本加算

胎児輸血術	歯科矯正診断料
胎児輸血術(一連につき)及び臍帯穿刺	口腔病理診断管理加算1
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	顎口腔機能診断料
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	クラウン・ブリッジ維持管理料
輸血管理料 I	
コーディネート体制充実加算	
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
歯根端切除手術(1歯につき)(歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いた場合)	
歯周組織再生誘導手術	
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
麻酔管理料(I)	
麻酔管理料(II)	
麻酔管理料 周術期薬剤管理加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・マルチプレックス遺伝子パネル検査	・
・流産検体を用いた染色体検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	32回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	6例
	剖検率(%)	3%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
スポロゾイトの分泌タンパク質輸送メカニズムにおけるRAMAの作用機序の解明	石野 智子	プロテオサイエンスセンター	5,200,000	補○	日本学術振興会
大動脈弁石灰化における骨芽細胞分化マスターレギュレーターの同定と機能阻害剤の開発	泉谷 裕則	医学系研究科	3,510,000	補○	日本学術振興会
加齢によるサルコペニア疾患病態理解のためのエピゲノム制御機構解明	今井 祐記	プロテオサイエンスセンター	5,850,000	補○	日本学術振興会
睡眠教育プログラムの教育現場における実証研究	岡 靖哲	医学部附属病院	5,330,000	補○	日本学術振興会
エピジェネティクス変化と包括的転写ネットワーク解析による骨疾患の病態解明	北澤 荘平	医学系研究科	3,120,000	補○	日本学術振興会
グルタミンによるT細胞シグナル伝達と分化の統合的制御機構の解明	山下 政克	医学系研究科	5,330,000	補○	日本学術振興会
自己炎症疾患の発作の周期性や炎症の多様性を規定する責任分子調節分子群の包括的同定	増本 純也	プロテオサイエンスセンター	5,980,000	補○	日本学術振興会
遺伝子異常に基づいた口腔扁平上皮癌制御戦略	中城 公一	医学系研究科	4,290,000	補○	日本学術振興会
分子夾雑環境におけるプロテオフォーム動態のトップダウンプロテオミクス解析	武森 信暁	学術支援センター	2,470,000	補○	日本学術振興会
代謝-エピゲノムのクロストークによる慢性アレルギー炎症細胞社会の形成	山下 政克	医学系研究科	3,770,000	補○	日本学術振興会
脊椎動物の全胚全細胞ライプ追跡と再構成による骨格形成多様性の解明	齋藤 卓	医学系研究科	3,120,000	補○	日本学術振興会
Bivalent DNAアプタマーによるプロテインノックダウン法の開発	前川 大志	プロテオサイエンスセンター	3,640,000	補○	日本学術振興会
新規リボトールリン酸修飾の分子基盤の解明と筋ジストロフィー治療法開発への展開	金川 基	医学系研究科	4,680,000	補○	日本学術振興会

RhoB-CNKSR1複合体によるHER1/2不活性化機構解析と制御剤開発・応用	東山 繁樹	プロテオサイエンスセンター	6,370,000	補○ 委	日本学術振興会
次世代ヒト化患者腫瘍組織移植モデルによる高精度治療創薬支援プラットフォームの確立	竹中 克斗	医学系研究科	6,500,000	補○ 委	日本学術振興会
革新的イメージング技術と一細胞解析を駆使したOA線維化の病態解明と制御法の確立	今村 健志	医学系研究科	6,500,000	補○ 委	日本学術振興会
世代別うつ症状と関連する環境要因及び遺伝的要因と環境要因の交互作用に関する疫学研究	三宅 吉博	医学系研究科	6,240,000	補○ 委	日本学術振興会
血管振動刺激に対して血流改善が得られ疼痛軽減および関節可動域の改善	小倉 正敬	医学部附属病院	470,000	補○ 委	日本学術振興会
NLRP3インフラマソームを調節する新規分子の生理機能の解析	金子 直恵	医学部	470,000	補○ 委	日本学術振興会
喉頭全摘術を受けるがん患者とパートナーの首尾一貫感覚を高める看護実践モデルの開発	山内 栄子	医学系研究科	910,000	補○ 委	日本学術振興会
前十字靭帯再建型人工膝関節の開発:機能解析と最適化	日野 和典	医学系研究科	650,000	補○ 委	日本学術振興会
神経幹細胞分化を司るニューロエピジェネティクスとその制御機構の解明	武内 章英	医学系研究科	650,000	補○ 委	日本学術振興会
小児特発性ネフローゼ症候群におけるSMPDL-3bの意義の解明	渡邊 祥二郎	医学系研究科	260,000	補○ 委	日本学術振興会
小児1型糖尿病患者と家族の成人型医療への円滑な移行を促進するガイドラインの開発	野本 美佳	医学系研究科	910,000	補○ 委	日本学術振興会
在宅要介護高齢者のアセスメントに基づいた在宅排尿ケアプログラムの構築	田中 久美子	医学系研究科	650,000	補○ 委	日本学術振興会
没入型内視鏡画像処理機能と力学提示を応用した安全な内視鏡外科手術システムの開発	恵木 浩之	医学部附属病院	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
三日熱マalaria伝搬阻止効果のある患者血漿を用いた新規ワクチン候補抗原の探索	石野 智子	プロテオサイエンスセンター	5,850,000	補○ 委	日本学術振興会
間歇型一酸化炭素中毒の病態解明及び治療の究明	越智 紳一郎	医学系研究科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会

小計15件

生体吸収性素材を用いた経カテーテル心房中隔閉鎖術の移植後組織再生に関する検討	黒部 裕嗣	医学系研究科	1,820,000	補委	日本学術振興会
組織障害性HMGB1に着眼した肺虚血再灌流障害に対する新規戦略の確立	大谷 真二	医学部附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
肺癌における新規PD-L1発現調節機構とその免疫回避としての役割の解明	佐野 由文	医学系研究科	1,560,000	補委	日本学術振興会
クラスタリング手法によるMRI画像解析ー聴神経鞘腫の病態解明と先制医療の実現ー	國枝 武治	医学系研究科	650,000	補委	日本学術振興会
神経栄養因子を用いた顔面神経再生治療における病的共同運動の検討	山田 啓之	医学系研究科	1,040,000	補委	日本学術振興会
末梢血濾胞性ヘルパーT細胞を利用した視神経脊髄炎の多面的免疫モニタリング法の開発	越智 博文	医学系研究科	1,690,000	補委	日本学術振興会
膵癌におけるマクロファージ免疫チェックポイント dual mechanismの解明	岩本 千佳	医学系研究科	1,560,000	補委	日本学術振興会
誤嚥性肺炎を見据えた在宅高齢者のオーラルフレイルの予防的看護介入プログラムの開発	藤村 一美	医学系研究科	1,430,000	補委	日本学術振興会
高齢者排泄ケアの継続性を可能にする施設間連携システム構築に関する研究	陶山 啓子	医学系研究科	650,000	補委	日本学術振興会
超多列化CTを駆使した低侵襲・低被曝心筋血流定量評価法の開発と応用	城戸 輝仁	医学系研究科	910,000	補委	日本学術振興会
非平衡大気圧プラズマ(冷たいプラズマ)を用いたメラノーマに対する新規治療法の開発	白石 研	医学部附属病院	780,000	補委	日本学術振興会
先天性心臓手術における生体親和性ナノ複合代用心膜による心膜再生素材と治療法の開発	打田 俊司	医学部附属病院	520,000	補委	日本学術振興会
構造プロテオミクスのための高効率ゲル内タンパク質回収法の開発	武森 信暁	学術支援センター	1,430,000	補委	日本学術振興会
老人性骨粗鬆症の病態解析:加齢モデルにおける破骨細胞分化因子発現制御	北澤 理子	医学部附属病院	650,000	補委	日本学術振興会
Identifying malaria vaccine candidate antigens using genetic linkage analyses	カレトン リチャード	プロテオサイエンスセンター	1,300,000	補委	日本学術振興会

小計15件

2型糖尿病原因遺伝子レジスチンを標的とした遺伝子環境因子相互作用メカニズムの解明	川村 良一	医学系研究科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
ヒト臨床検体を用いた大動脈弁狭窄症の分子機序・血中病態予測マーカーの探索	青野 潤	医学部附属病院	1,170,000	補 委	日本学術振興会
培養脂腺細胞の分泌膜小胞セボゾームの生成と周辺細胞への脂質供給機構	永井 彩子	医学部附属病院	1,040,000	補 委	日本学術振興会
慢性皮膚炎症に伴う細胞老化における代謝とエピゲノム変化の役割	大森 深雪	医学系研究科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
GPR25遺伝子による血小板減少性血栓性素因を呈する疾患病態の解明	山之内 純	医学部附属病院	1,430,000	補 委	日本学術振興会
小児白血病の発症プロセスに基づく発症・再発予防法開発への基礎研究	江口 真理子	医学系研究科	1,040,000	補 委	日本学術振興会
Rabによるオートファジーを介したアレルギー性気道炎症の慢性化機序の解明	鈴木 淳平	医学系研究科	1,040,000	補 委	日本学術振興会
我が国における重症熱性血小板減少症候群の臨床的特徴と病態の解析	末盛 浩一郎	医学部附属病院	1,170,000	補 委	日本学術振興会
肝移植後虚血性胆管障害に対する治療戦略	小川 晃平	医学系研究科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
大腸がん特異的タンパク質代謝マーカーの探索・同定と臨床応用	渡部 祐司	医学系研究科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
軽度外傷性脳損傷に対するジンセンノサイドRb1と誘導体の治療効果に関する研究	阪中 雅広	医学部	1,040,000	補 委	日本学術振興会
一酸化炭素中毒後遅発性脳症に対する神経栄養因子の投与による治療効果の検討	西原 佑	医学系研究科	910,000	補 委	日本学術振興会
I型筋強直性ジストロフィー疾患iPS細胞を用いたリピート伸長メカニズムの解明	加門 正義	医学系研究科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
妊娠高血圧症候群の病態形成に対するトロホブラスト由来exosomeの関与	松原 圭一	医学系研究科	1,170,000	補 委	日本学術振興会
臓器間ネットワークの視点よりみた妊娠時インスリン抵抗性の病態生理学的検討	杉山 隆	医学系研究科	1,430,000	補 委	日本学術振興会

小計15件

ユビキチンE3複合体を標的とした血管奇形の新規治療戦略の創出	中岡 啓喜	医学部附属病院	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
リンパ節転移診断遺伝子アルゴリズムの構築による口腔癌リンパ節転移予測の確立	合田 啓之	医学部附属病院	910,000	補○ 委	日本学術振興会
フラッシュグルコースモニタリングシステムを活用した小児糖尿病患者への自己管理支援	薬師神 裕子	医学系研究科	910,000	補○ 委	日本学術振興会
療養病床における経管栄養を受ける高齢者の排便ケアに関する包括的質評価指標の開発	小岡 亜希子	医学系研究科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
コレステロール摂取が非アルコール性脂肪肝の進展と発癌に及ぼす影響とその機序の解明	三宅 映己	医学部附属病院	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
生体イメージングと数理を融合した表現型解析に基づく遺伝疾患解明へのアプローチ	齋藤 卓	医学系研究科	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
幹細胞から成熟赤血球製造効率の向上に向けた赤芽球脱核現象の制御研究	満田 憲昭	医学系研究科	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
睡眠障害を来した心不全におけるメラトニン誘導性オートファジーの機能解明	高橋 佳世	医学部附属病院	390,000	補○ 委	日本学術振興会
micro-RNAに着目したがん関連血栓症の病態解明と先制医療への展開	東 晴彦	医学部附属病院	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
大動脈弁狭窄症における石灰化関連因子の機能解析	濱口 美香	医学部附属病院	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
三次元培養皮膚を用いた乾燥状態皮膚モデルの作成	宇都宮 亮	医学系研究科	780,000	補○ 委	日本学術振興会
細胞膜形態制御機構を標的とした新規HER2陽性乳癌治療薬の導出	村上 朱里	医学部附属病院	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
CUL3型ユビキチンE3複合体による新規増殖シグナル制御の解明と乳癌治療への応用	西山 加那子	医学部附属病院	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
敗血症における免疫不全の原因は制御性B細胞か？：PD-L1発現との関連	松本 紘典	医学系研究科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
脳梗塞・脳出血後の血液中monocyteの変化と重症度の関係	阿部 尚紀	医学部附属病院	780,000	補○ 委	日本学術振興会

マクロファージが産生するEmilin2の骨代謝における機能解明と臨床応用の可能性	小原 幸弘	医学系研究科	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
前立腺癌原因遺伝子ETV1のタンパク質分解機構解析と前立腺癌治療への応用	渡辺 隆太	医学部附属病院	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
医学生への地域志向性、総合医診療への興味を滋養する医学教育、地域実習法の検討	菊池 明日香	医学部附属病院	390,000	補 委	日本学術 振興会
なんのために眠るのか? : ミクログリアによる入眠時のシナプス貪食からの解明	チョードリ エマムッセレヒン	医学系研究科	1,170,000	補 委	日本学術 振興会
血管の炎症と動脈硬化: インフラマソーム活性化の動脈硬化への寄与の病理学的解明	倉田 美恵	プロテオサイエンスセンター	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
伝統薬物成分、合成成分の発癌と癌増殖に及ぼす免疫機能活性化・制御と環境制御作用	木村 善行	医学部	1,950,000	補 委	日本学術 振興会
血中エクソソームmicroRNAに着目した認知症の予測・診断法の開発	外山 研介	医学系研究科	2,080,000	補 委	日本学術 振興会
アルツハイマー病のインスリンシグナリング障害およびAβの分子病態と治療	大八木 保政	医学系研究科	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
オンライン診療をふまえた超高感度ELISAによる在宅採取サンプルを用いた臨床検査	高田 康徳	医学系研究科	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
デジタルPET/CTによる冠動脈プラークおよび血管周囲脂肪組織の炎症イメージング	宮川 正男	医学部附属病院	2,470,000	補 委	日本学術 振興会
消化管ホルモン受容体活性化機構と相互連関	松浦 文三	医学系研究科	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
PKR代謝制御に着目したNASH関連肝細胞癌の発症・進展機序解明と創薬応用	渡辺 崇夫	医学系研究科	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
リソソーム機能異常による心不全発症機構の解明	山口 修	医学系研究科	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
掌蹠膿疱症の発症メカニズム: 初期水疱形成環境の三次元微細構造解析と実験モデル作成	村上 正基	医学系研究科	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
キメラ型抗原受容体遺伝子導入Tリンパ球による原発性骨髄線維症に対する細胞免疫療法	谷本 一史	医学部附属病院	1,560,000	補 委	日本学術 振興会

前白血病幹細胞を標的とした小児白血病の発症予防の試み	江口 峰斉	医学部附属病院	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
レジスチン遺伝子発現制御機構におけるプロモーターSNP配列特異的効果の統合的解明	大澤 春彦	医学系研究科	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
カダバーサージカルトレーニングにおける消化器外科手術に適した灌流固定法の開発	高田 泰次	医学系研究科	1,690,000	補 委	日本学術 振興会
静脈麻酔薬プロポフォールによるT細胞代謝変化が腫瘍免疫応答に与える影響	萬家 俊博	医学系研究科	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
徐放化栄養因子の経鼓膜的鼓室内投与による高度顔面神経麻痺新規治療法の開発	羽藤 直人	医学系研究科	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
レックリングハウゼン病遺伝子Nf1を応用した角膜実質透明治療に向けた治療戦略確立	白石 敦	医学系研究科	2,990,000	補 委	日本学術 振興会
HMGB1およびLL37含有軟膏による糖尿病性足病変(潰瘍)に対する治療薬の開発	戸澤 麻美	医学部附属病院	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
CXCR4システムと癌関連線維芽細胞を標的とした口腔癌に対する集学的治療法の開発	栗林 伸行	医学系研究科	1,170,000	補 委	日本学術 振興会
中高齢者の歯周病のリスク要因を解明し、全身疾患を予防する:前向きコホート研究	田中 景子	医学系研究科	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
更年期女性の不定愁訴及び行動特性の客観的評価とヘルスリテラシーとの関連	城賀本 晶子	医学系研究科	1,170,000	補 委	日本学術 振興会
ペアレント・メンター等の地域資源と連携した発達障害児の家族支援プログラムの開発	西嶋 真理子	医学系研究科	650,000	補 委	日本学術 振興会
在宅緩和ケアコーディネーターの活動上の困難とそれを乗り越えるに至った要因	吉田 美由紀	医学系研究科	390,000	補 委	日本学術 振興会
左室駆出分画の保たれた心不全における簡便な運動処方と左房機能改善効果の検討	井上 勝次	医学系研究科	1,690,000	補 委	日本学術 振興会
安全かつ迅速で正確な腹腔鏡手術のための革新的上方照明システムの有用性の検証	高井 昭洋	医学部附属病院	1,950,000	補 委	日本学術 振興会
マラリア原虫スポロゾイトの哺乳類への伝搬におけるRON4の作用機序の解明	馬場 みなみ	プロテオサイエンスセンター	2,210,000	補 委	日本学術 振興会

グルタミン代謝抑制によるCD8+ T細胞の抗腫瘍活性増強法のヒトへの応用	名部 彰悟	医学系研究科	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
インスリン抵抗性惹起因子レジスチンを高発現する新たな単球サブタイプの統合的解明	池田 陽介	医学部附属病院	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
病態に基づく選択的SNPを標的としたインスリン抵抗性疾患個別化予防法の確立	高門 美沙季	医学部附属病院	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
妊娠期の抗精神病薬暴露が出生後の仔マウスへ与える影響	吉野 祐太	医学部附属病院	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
心筋虚血評価に最適な低侵襲心筋CT perfusion検査の開発と臨床応用	田邊 裕貴	医学部附属病院	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
3D遅延造影MRIにおけるCompressed Sensingの有用性検討	中村 壮志	医学部附属病院	520,000	補○ 委	日本学術振興会
非アルコール性脂肪性肝疾患を背景とする肝発癌におけるB細胞活性化因子の役割	中村 由子	医学部附属病院	2,340,000	補○ 委	日本学術振興会
数値流体力学を用いた解剖学的情報による大血管血流動態の解析	赤澤 祐介	医学部附属病院	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
血管炎症候群の新規活動性バイオマーカーの実用化に向けた検証と新規治療標的の探索	石崎 淳	医学部附属病院	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
エピゲノムを標的とした骨粗鬆症に対する新規治療標的分子の探索	柳原 裕太	学術支援センター	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
頭頸部外科手術における次世代シミュレーショントレーニングの開発	三谷 壮平	医学系研究科	910,000	補○ 委	日本学術振興会
頭頸部扁平上皮癌浸潤・転移におけるNHE1に関する検討	木谷 卓史	医学部附属病院	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
動静脈奇形で高発現するSNX9の分解促進剤の開発	眞田 紗代子	医学部附属病院	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
悪性黒色腫のAutophagyにおけるHMGB1の役割の解析	松本 麻由	医学部附属病院	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
思春期におけるインターネット依存の病態解明と予防マニュアルの開発	河邊 憲太郎	医学部附属病院	780,000	補○ 委	日本学術振興会

小計15件

糖尿病合併がん患者の糖尿病療養と化学療法の副作用の自己管理支援プログラム開発	寺尾 奈歩子	医学系研究科	520,000	補委	日本学術振興会
サルコペニア嚙下障害のメカニズム解明と筋萎縮予防薬の有効性の検討	勢井 洋史	医学部附属病院	780,000	補委	日本学術振興会
ミクログリアによるシナプス貪食と異性間コミュニケーション行動	田中 潤也	医学系研究科	3,120,000	補委	日本学術振興会
大動脈弁における異所性骨芽細胞分化を司る新規脂質代謝シグナルネットワークの解析	泉谷 裕則	医学系研究科	1,820,000	補委	日本学術振興会
老化T細胞除去による抗腫瘍活性増強法の開発	松岡 祐子	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
PRP-hydrogelを用いた虚血性難聴に対する新たな治療法の開発	高木 太郎	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
衛生仮説に資する周産期の環境要因曝露とアレルギー疾患の関連に関するコホート研究	時信 亜希子	医学系研究科	1,430,000	補委	日本学術振興会
費用対効果分析による本邦の心房細動治療の検証と至適治療戦略の構築	川上 大志	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
線維筋痛症患者における認知行動療法の増強要因の検討	小手川 雄一	医学部附属病院	2,600,000	補委	日本学術振興会
滑膜マクロファージに着目した関節リウマチ病態の性差メカニズムの解明	佐伯 法学	学術支援センター	1,300,000	補委	日本学術振興会
腫瘍随伴マクロファージが分泌するプロサポニンによる癌伸展作用の解明	鍋加 浩明	医学系研究科	1,170,000	補委	日本学術振興会
Wntシグナル経路を基軸とする気管支随伴リンパ組織-BALT-の頭在化機構の解明	原口 竜摩	医学系研究科	1,300,000	補委	日本学術振興会
マラリア原虫の受精に関与する雄分子PyMiGSと相互作用する雌性生殖体分子の同定	橘 真由美	プロテオサイエンスセンター	1,690,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌関連遺伝子SPOPによるDNA複製ストレス解消の分子基盤	前川 大志	プロテオサイエンスセンター	1,300,000	補委	日本学術振興会
サルコペニア・動脈硬化・認知機能低下の新規治療標的としてのAGEsの探究	越智 雅之	医学部附属病院	910,000	補委	日本学術振興会

小計15件

圧縮センシングを応用した冠動脈MRA高速撮像法の開発	城戸 倫之	医学系研究科	1,820,000	補 委	日本学術振興会
新規エコーシートによる超音波診断法の確立	廣岡 昌史	医学部附属病院	1,560,000	補 委	日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎に対する小腸脂肪酸輸送体を標的とした新規治療法の開発	山本 安則	医学部附属病院	1,430,000	補 委	日本学術振興会
B型慢性肝炎に対するHBs抗原の消失を目指したワクチン治療の開発	吉田 理	医学部附属病院	1,690,000	補 委	日本学術振興会
肝細胞がんの発がんおよび進展に関わるPKR関連分子eIF2の標的治療の可能性	日浅 陽一	医学系研究科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
骨格筋と新たな組織診断によるフォンタン術後肝合併症の予後不良因子のスクリーニング	小泉 洋平	医学部附属病院	1,820,000	補 委	日本学術振興会
細胞骨格制御に着目した尿毒症物質による心血管障害の病態解明	牧田 愛祐	医学部附属病院	1,560,000	補 委	日本学術振興会
T細胞機能の異常が誘発する肺の恒常性破綻の分子機構とその制御機構の解明	桑原 誠	医学系研究科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
非平衡大気圧プラズマ(冷たいプラズマ)による皮膚免疫抑制作用の解明	佐山 浩二	医学系研究科	2,080,000	補 委	日本学術振興会
女性ホルモン欠乏による難治性皮膚疾患に対する糖鎖関連治療薬の開発と作用機序解明	武藤 潤	医学部附属病院	1,300,000	補 委	日本学術振興会
一本鎖抗体を応用してシグナルを制御する次世代型サイトカインの作製と臨床応用	越智 俊元	医学系研究科	1,170,000	補 委	日本学術振興会
免疫寛容型樹状細胞の解析と膠原病疾患への応用	松本 卓也	医学部附属病院	1,040,000	補 委	日本学術振興会
T細胞早期老化モデルマウスを用いたワクチン有効率改善方法の検討	松本 哲	医学系研究科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
反復性軽度外傷性脳損傷の白質初期病変解明	朱 鵬翔	医学系研究科	1,950,000	補 委	日本学術振興会
二分脊椎モデルでの薬物療法による治療メカニズムの二光子顕微鏡による解析	松田 正司	医学部	1,950,000	補 委	日本学術振興会

小計15件

Invasion nicheの酸素環境制御による腫瘍幹細胞破綻メカニズムの解明	渡邊 英昭	医学系研究科	780,000	補○ 委	日本学術振興会
成長因子プロサポニンによる哺乳類二分脊椎モデルでの治療	カーン モハメド シャキル	医学系研究科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
アンドロゲン減少による骨格筋外組織からの骨格筋量の制御メカニズムの基礎的研究	雑賀 隆史	医学系研究科	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
前立腺癌関連血管内皮細胞におけるPSMAの発現制御機構及び、その分子機能の解明	三浦 徳宣	医学部附属病院	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
音響性聴器障害モデルにおける内耳シナプスの易障害性のメカニズムを探る	寺岡 正人	医学部附属病院	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
認知症モデルマウスにおける聴覚障害の検討	岡田 昌浩	医学部附属病院	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
血清細胞外小胞へのLOXL2局在を標的とした頭頸部がん転移の新規診断・治療の開発	矢野 元	医学系研究科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
自家移植を目指した機能性エクリン汗腺を含有する三次元培養表皮の開発	亀田 健治	学術支援センター	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
ドライバー遺伝子変異の監視による口腔潜在的悪性疾患(OPMDs)の新規治療戦略	内田 大亮	医学系研究科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
ドライバー遺伝子変異の監視による口腔潜在的悪性疾患(OPMDs)の新規治療戦略	内田 大亮	医学系研究科	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会
口腔癌リンパ節転移節外進展における脂肪細胞の役割	栗林 恭子	医学部附属病院	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
歯周病は妊娠糖尿病のリスク因子か？	日野 聡史	医学部附属病院	2,210,000	補○ 委	日本学術振興会
オノマトペと日常生活動作を用いた糖尿病患者のしびれ評価尺度の開発と指標の明確化	赤松 公子	医学系研究科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
不妊治療の終結における意思決定支援モデルの検討	崎山 貴代	医学系研究科	650,000	補○ 委	日本学術振興会
筋の健全性維持システムにおけるレニン・アンジオテンシン系の役割と筋疾患治療応用	岩波 純	医学系研究科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会

非破壊工学技術を応用した非侵襲的腎盂内圧測定の新規開発	西村 謙一	医学部附属病院	1,040,000	補 委	日本学術振興会
サルコイドーシスモデルマウスを用いたサルコイド肉芽腫形成過程の組織学的解析	森川 紳之祐	プロテオサイエンスセンター	2,470,000	補 委	日本学術振興会
CAR-T細胞・BiTEの直接比較に基づく前臨床スクリーニングモデルの構築	丸田 雅樹	医学部附属病院	1,560,000	補 委	日本学術振興会
パーキンソン病におけるGDF15測定の有用性の検討と神経炎症に及ぼす作用の解析	宮上 紀之	医学部附属病院	1,040,000	補 委	日本学術振興会
逐次近似再構成を用いた低侵襲Dynamic心筋CT perfusion検査の開発	桑原 奈都美	医学部附属病院	130,000	補 委	日本学術振興会
造影剤を用いたデジタルPET/CTによる心サルコイドーシス診断方法の開発と応用	川口 直人	医学部附属病院	780,000	補 委	日本学術振興会
ダイナミックCTP画像に3次元トラッキング技術を適応した冠動脈血流指標の確立	松田 卓也	医学系研究科	1,040,000	補 委	日本学術振興会
ミクログリアに注目した注意欠陥多動性障害の病態生理的説明と新規治療法の開発	城賀本 敏宏	医学系研究科	1,690,000	補 委	日本学術振興会
外科領域におけるコンピュータ流体解析の有用性	坂元 克考	医学部附属病院	3,640,000	補 委	日本学術振興会
周術期合併症の生物学的リスク因子解析と、機械学習による早期警告システムの開発	鈴木 康之	医学部	1,690,000	補 委	日本学術振興会
悪性腫瘍の浸潤転移を抑制するタンパク質CLIC2をもとにした膠芽腫治療薬の開発	尾崎 沙耶	医学系研究科	2,080,000	補 委	日本学術振興会
悪性グリオーマに対する腫瘍特異的5-ALA併用超音波力学療法—既存薬との相乗効果	末廣 諭	医学系研究科	1,950,000	補 委	日本学術振興会
若年女性アスリートのエストロゲン分泌異常による骨代謝障害の機序解明	池戸 葵	プロテオサイエンスセンター	1,430,000	補 委	日本学術振興会
慢性内耳虚血の病態解明および治療法開発	高木 太郎	医学部附属病院	1,950,000	補 委	日本学術振興会
VR/MR技術を利用した眼窩部手術手技トレーニング	三谷 亜里沙	医学系研究科	1,820,000	補 委	日本学術振興会

小計15件

死後経過時間推定のための組織学的・分子細胞学的検討	中林 ゆき	医学系研究科	1,300,000	補委	日本学術振興会
アンドロゲンの骨格筋量維持増加作用の分子メカニズムの解明	酒井 大史	プロテオサイエンスセンター	2,210,000	補委	日本学術振興会
疾患特異的タンパク質の分解誘導システムの開発・応用	東山 繁樹	プロテオサイエンスセンター	6,500,000	補委	日本学術振興会
メチル化DNAの塩基配列特異的in situ検出技術の開発研究	北澤 荘平	医学系研究科	3,380,000	補委	日本学術振興会
PERKを介した細胞内ストレス適応が肝細胞がん進展に及ぼす影響	行本 敦	医学部附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
母親を孤立させない産後ケア創出に向けた1年間使用可能な産後ケアニーズ尺度の開発	宇都宮 美加	医学系研究科	1,560,000	補委	日本学術振興会
流体力学の理論と実験的手法を用いた冠血流動態の解析	清家 史靖	医学部附属病院	1,056,192	補委	日本学術振興会
International translational research for clinical applications of novel biodegradable ASD occluder device using large animals	黒部 裕嗣	医学系研究科	4,810,000	補委	日本学術振興会
マラリア原虫の赤血球侵入期における滑走運動の役割	矢幡 一英	プロテオサイエンスセンター	1,040,000	補委	日本学術振興会
熱帯熱マラリア原虫の滑走運動と赤血球侵入のメカニズム	矢幡 一英	プロテオサイエンスセンター	5,590,000	補委	日本学術振興会
ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究～オール四国の体制の整備～	高田 清式	医学部附属病院	10,000,000	補委	厚生労働省
小児慢性特定疾病児童等自立支援に資する研究	檜垣 高史	医学系研究科	11,400,000	補委	厚生労働省
大規模データの利活用研究の加速のための研究	木村 映善	医学系研究科	13,000,000	補委	厚生労働省
腫瘍微小環境を標的として革新的キメラ抗原受容体T細胞療法の検証	越智 俊元	医学系研究科	3,575,000	補委	日本医療研究開発機構
高分化能を保有する新型ヒトiPS細胞T-iPS細胞の	加藤 茜政	医学系研究科	14,300,000	補	日本医療研究開発機構

有用性実証研究	加藤 大以	医学系研究科	11,000,000	委○	研究開発機構
福山型筋ジストロフィーおよび類縁の糖鎖異常型筋ジストロフィーに対する糖鎖補充療法の開発	金川 基	医学系研究科	23,140,000	補委○	日本医療研究開発機構
機械受容応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開	金川 基	医学系研究科	15,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
高齢中高度難聴者のQOLを改善する革新的骨導補聴デバイスの開発	羽藤 直人	医学系研究科	8,689,200	補委○	日本医療研究開発機構
B型肝炎患者のドラッグフリーを目指した免疫治療法の開発	日浅 陽一	医学系研究科	7,800,000	補委○	日本医療研究開発機構
病原性メモリーTh2細胞を標的とした難治性アレルギー治療薬の探索	山下 政克	医学系研究科	10,270,000	補委○	日本医療研究開発機構

小計15件

計 198件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Nakamoto H, Katanosaka Y, Chijimatsu R, et al.	医化学・細胞生物学	Involvement of Transient Receptor Potential Vanilloid Channel 2 in the Induction of Lubricin and Suppression of Ectopic Endochondral Ossification in Mouse Articular Cartilage	Arthritis Rheumatol. 2021 Aug;73(8):1441-1450. doi: 10.1002/art.41684.	Original Article
2	Nakamoto H, Katanosaka Y, Chijimatsu R, et al.	医化学・細胞生物学	Angiotensin II and Amyloid-beta Synergistically Induce Brain Vascular Smooth Muscle Cell Senescence.	Am J Hypertens. 2021 May 22;34(5):552-562. doi: 10.1093/ajh/hpaa218.	Original Article
3	Nagasawa T, Horitani M, Kawaguchi SI, et al.	生化学・分子遺伝学	The molecular mechanism of phytylphosphatidylcholine binding to FFAR4/GPR120 differs from that of other fatty acids.	FEBS Open Bio. 2021 Nov;11(11):3081-3089. doi: 10.1002/2211-5463.13301.	Original Article
4	Watanabe R, Maekawa M, Kiyoi T, et al.	生化学・分子遺伝学	PSMA-positive membranes secreted from prostate cancer cells have potency to transform vascular endothelial cells into an angiogenic state.	Prostate. 2021 Dec;81(16):1390-1401. doi: 10.1002/pros.24237.	Original Article
5	Suzuki T, Terada N, Higashiyama S, et al.	生化学・分子遺伝学	Non-microtubule tubulin-based backbone and subordinate components of postsynaptic density lattices.	Life Sci Alliance. 2021 May 18;4(7):e20200945. doi: 10.26508/lsa.20200945. Print 2021 Jul.	Original Article
6	Imoto I, Saito M, Suga K, et al.	生化学・分子遺伝学	Functionally confirmed compound heterozygous ADAM17 missense loss-of-function variants cause neonatal inflammatory skin and bowel disease 1.	Sci Rep. 2021 May 5;11(1):9552. doi: 10.1038/s41598-021-89063-0.	Original Article
7	Junya Tanaka, Hisaaki T	分子細胞生理学	Generation of CSF1-Independent Ramified Microglia-Like Cells from Leptomeninges In Vitro	Cells :10: 24. DOI: 10.3390/cells10010024	Original Article
8	Masahiro Nishikawa, Akihiro Inoue, Takanori Ohnishi, et al.	分子細胞生理学	CD44 expression in the tumor periphery predicts the responsiveness to bevacizumab in the treatment of recurrent glioblastoma	Cancer Medicine10: 2013-2025 DOI: 10.1002/cam4.3767	Original Article
9	Saya Ozaki, Akihiro Umakoshi, Hajime Yano, et al.	分子細胞生理学	Chloride intracellular channel protein 2 is secreted and inhibits MMP14 activity, while preventing tumor cell invasion and metastasis	Neoplasia 23: 754-765 DOI: 10.1016/j.neo.2021.06.001	Original Article
10	Yoshiaki Sugihara, Naoto Inai, Thomas Baumgartner, et al.	分子病態医学	Donor-acceptor-acceptor-type near-infrared fluorophores that contain dithienophosphole oxide and boron groups: Effect of the boron group on the nonradiative decay	Chem Sci. 2021 Mar 25;12(18):6333-6341. doi:10.1039/D1SC00827G	Original Article
11	Sota Takanezawa, Takashi Saitou, Takeshi Imamura	分子病態医学	Wide Field Light-Sheet Microscopy with Lens-axicon Controlled Two-photon Bessel Beam Illumination	Nat Commun. 2021 May 20;12(1):2979. doi:10.1038/s41467-021-23249-y	Original Article
12	Tetsushi Murakami, Nobuyuki Tanaka, Kimiharu Takamatsu, et al.	分子病態医学	Multiplexed single-cell pathology reveals the association of CD8 T-cell heterogeneity with prognostic outcomes in renal cell carcinoma	Cancer Immunol Immunother. 2021 Oct;70(10):3001-3013. Epub 2021 Jul 14. doi:10.1007/s00262-021-03006-2	Original Article
13	Kimiharu Takamatsu, Nobuyuki Tanaka, Kyohei Hakozaeki, et al.	分子病態医学	Profiling the inhibitory receptors LAG-3, TIM-3, and TIGIT in renal cell carcinoma reveals malignancy	Nat Commun. 2021 Sep 20;12(1):5547. doi:10.1038/s41467-021-25865-0	Original Article
14	Takenaka K, Onishi Y, Mori T, et al.	血液・免疫・感染症内科学、造血細胞	Negative Impact of Cytomegalovirus Reactivation on Survival in Adult Patients with Aplastic Anemia after an Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation.	Transplant Cell Ther. 27(1): 82.e1-82.e8	Original Article
15	Suemori K, Saijo M, Yamana A, et al.	血液・免疫・感染症内科学、造血細胞	A multicenter non-randomized, uncontrolled single arm trial for evaluation of the efficacy and the safety of the treatment with favipiravir for patients with severe fever with thrombocytopenia syndrome.	PLoS Negl Trop Dis. 15(2): e0009103	Original Article
16	Ochi T, Maruta M, Tanimoto K, et al.	血液・免疫・感染症内科学、造血細胞	A single-chain antibody generation system yielding CAR-T cells with superior antitumor function.	Commun Biol. 4(1): 273	Original Article
17	Nakamura Y, Takenaka K, Yamazaki H, et al.	血液・免疫・感染症内科学、造血細胞	Outcome of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in adult patients with paroxysmal nocturnal hemoglobinuria.	Int J Hematol. 113(1): 122-127	Original Article
18	Onishi Y, Mori T, Yamazaki H, et al.	血液・免疫・感染症内科学、造血細胞	Cyclosporine/methotrexate versus tacrolimus/methotrexate with or without anti-thymocyte globulin as GVHD prophylaxis in adult patients with aplastic anemia.	Ann Hematol. 100(1): 217-228	Original Article
19	Iriguchi S, Yasui Y, Kawai Y, et al.	血液・免疫・感染症内科学、造血細胞	A clinically applicable and scalable method to regenerate T-cells from iPSCs for off-the-shelf T-cell immunotherapy.	Nat Commun. 12(1): 430	Original Article
20	Kikuchi R, Tsuboi N, Sada KE, et al.	血液・免疫・感染症内科学、造血細胞	Vascular endothelial growth factor (VEGF)-A and VEGF-A 165 b are associated with time to remission of granulomatosis with polyangiitis in a nationwide Japanese prospective cohort study.	Ann Clin Biochem. 58(2): 86-94	Original Article
21	Mori Y, Jinnouchi F, Takenaka K, et al.	血液・免疫・感染症内科学、造血細胞	Efficacy of prophylactic letermovir for cytomegalovirus reactivation in hematopoietic cell transplantation: a multicenter real-world data.	Bone Marrow Transplant. 56(4): 853-862	Original Article
22	Yokoe Y, Tsuboi N, Imaizumi T, et al.	血液・免疫・感染症内科学、造血細胞	Clinical impact of urinary CD11b and CD163 on the renal outcomes of anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated glomerulonephritis.	Nephrol Dial Transplant. 36(8): 1452-1463	Original Article
23	Tatsuya Konishi, Noritaka Sekiya, Yuki Otsuka, et al.	血液・免疫・感染症内科学、造血細胞	Changes in vaccination strategies contribute to the development of invasive pneumococcal disease in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation recipients: a retrospective study for promoting vaccination.	Int J Hematol. 114(2): 263-270	Original Article
24	Iwamoto C, Ohuchida K, Shinkawa T, et al.	血液・免疫・感染症内科学、造血細胞	Bone marrow-derived macrophages converted into cancer-associated fibroblast-like cells promote pancreatic cancer progression.	Cancer Lett. 512: 15-27	Original Article
25	Yasuda S, Najima Y, Konishi T, et al.	血液・免疫・感染症内科学、造血細胞	Outcome of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for T-cell lymphoblastic leukemia/lymphoma: A single-center study.	Leuk Res. 108: 106627	Original Article
26	Kataoka Y, Anan K, Taito S, et al.	血液・免疫・感染症内科学、造血細胞	Quality of clinical practice guidelines in Japan remains low: A cross-sectional meta-epidemiological study.	J Clin Epidemiol. 138: 22-31	Original Article
27	Higashioka M, Sakata S, Honda T, et al.	糖尿病内科学	The Association of Small Dense Low-Density Lipoprotein Cholesterol and Coronary Heart Disease in Subjects at High Cardiovascular Risk.	J Atheroscler Thromb. 2021 Jan 1;28(1):79-89. doi: 10.5551/jat.55350.	Original Article
28	Kawamura R, Tabara Y, Takata Y, et al.	糖尿病内科学	Association of a SNP in the IAPP gene and hyperglycemia on beta-cell dysfunction in type 2 diabetes: the Toon Genome Study.	Diabetol Int 2021 Aug 12;13(1):201-208. doi: 10.1007/s13340-021-00523-4.	Original Article
29	Uesugi Y, Maruyama K, Saito I, et al.	糖尿病内科学	A cross-sectional study of the relationship of Timed Up & Go Test with physical characteristics and physical activity in healthy Japanese: The Toon Health Study.	Healthcare 2021 Jul 24;9(8):933. doi: 10.3390/healthcare9080933.	Original Article
30	Takata Y, Kawamura R, Osawa H, et al.	糖尿病内科学	Insulin receptor cleavage induced by estrogen impairs insulin signaling.	BMJ Open Diabetes Res Care 2021 Dec;9(2):e002467. doi: 10.1136/bmjdr-2021-002467.	Original Article
31	Sugimoto K, Ikegami H, Takata Y, et al.	糖尿病内科学	Glycemic Control and Insulin Improve Muscle Mass and Gait Speed in Type 2 Diabetes: The MUSCLES-DM Study.	J Am Med Dir Assoc 2021 Apr;22(4):834-838.e1. doi: 10.1016/j.jamda.2020.11.003.	Original Article
32	Hashimoto N, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, et al.	精神神経科学	Characteristics of discharge prescriptions for patients with schizophrenia or major depressive disorder: Real-world evidence from the Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education (EGUIDE) psychiatric treatment project.	Asian J Psychiatr. 2021 Sep;63:102744. doi: 10.1016/j.ajp.2021.102744.	Original Article
33	Horiuchi F, Yoshino Y, Kumon H, et al.	精神神経科学	Identification of aberrant innate and adaptive immunity based on changes in global gene expression in the blood of adults with autism spectrum disorder.	J Neuroinflammation. 2021 Apr 30;18(1):102. doi: 10.1186/s12974-021-02154-7.	Original Article
34	Horiuchi F, Kawabe K, Oka Y, et al.	精神神経科学	Mental health and sleep habits/problems in children aged 3-4 years: a population study	Biopsychosoc Med. 2021 May 20;15(1):10. doi: 10.1186/s13030-021-00213-2.	Original Article
35	Hosokawa B, Kawabe K, Nakachi K, et al.	精神神経科学	Behavioral Affect in Children with Autism Spectrum Disorder during School Closures Due to the COVID-19 Pandemic in Japan: A Case-Controlled Study	Dev Neuropsychol. 2021 Jun 23;1-10. doi: 10.1080/87565641	Original Article
36	Hashimoto R, Iga JI, Inada K, et al.	精神神経科学	Japanese Society of Neuropsychopharmacology: "Guideline for Pharmacological Therapy of Schizophrenia"	Neuropsychopharmacol Rep. 2021 Sep;41(3):266-324. doi: 10.1002/npr.2.12193.	Original Article

37	Kato M, Hori H, Inoue T, et al.	精神神経科学	Discontinuation of antidepressants after remission with antidepressant medication in major depressive disorder: a systematic review and meta-analysis.	Mol Psychiatry. 2021 Jan;26(1):118-133. doi: 10.1038/s41380-020-0843-0.	Original Article
38	Kawabe K, Horiuchi F, Uno H, et al.	精神神経科学	Parent-Adolescent Agreement on Adolescents' Emotional and Behavioral Problems Assessed by the Strengths and Difficulties Questionnaire.	Glob Pediatr Health. 2021 Mar 12;8:233794X211001245. doi: 10.1177/2333794X211001245. eCollection	Original Article
39	Kawabe K, Horiuchi F, Hosokawa R, et al.	精神神経科学	Association between Internet Addiction and Application Usage among Junior High School Students: A Field Survey	Int J Environ Res Public Health. 2021 May 1;18(9):4844. doi: 10.3390/ijerph18094844.	Original Article
40	Kumon H, Yoshino Y, Funahashi Y, et al.	精神神経科学	PICALM mRNA Expression in the Blood of Patients with Neurodegenerative Diseases and Geriatric Depression.	J Alzheimers Dis. 2021;79(3):1055-1062. doi: 10.3233/JAD-201046.	Original Article
41	Mori H, Funahashi Y, Yoshino Y, et al.	精神神経科学	Blood CDKN2A gene expression in aging and neurodegenerative diseases.	J Alzheimers Dis. 2021;82(4):1737-1744. doi: 10.3233/JAD-210483.	Original Article
42	Nakachi K, Kawabe K, Hosokawa R, et al.	精神神経科学	Differences in Psychological and Behavioral Changes between Children following School Closure due to COVID-19	Psychiatry J. 2021 Aug 21;2021:5667732. doi: 10.1155/2021/5667732. eCollection 2021.	Original Article
43	Numata S, Nakatani M, Hasegawa N, et al.	精神神経科学	Improvements in the degree of understanding the treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorder in a nationwide dissemination and implementation study.	Neuropsychopharmacol Rep. 2021 Jun;41(2):199-206. doi: 10.1002/npr.212173.	Original Article
44	Ochi S, Mori T, Iga JJ, et al.	精神神経科学	5-HT1A partial agonist tandospirone for behavioral and psychological symptoms in oldest-old patients with dementia at a special elderly nursing home.	Clin Psychopharmacol Neurosci. 2021 Aug 31;19(3):514-520. doi: 10.9758/cpn.2021.19.3.514.	Original Article
45	Ochi S, Sekiya K, Abe N, et al.	精神神経科学	Neural precursor cells are decreased in the hippocampus of the delayed carbon monoxide encephalopathy rat model.	Sci Rep. 2021 Mar 18;11(1):6244. doi: 10.1038/s41598-021-85860-9.	Original Article
46	Yokotsuka-Ishida S, Nakamura M, Tomiyasu Y, et al.	精神神経科学	Optimized protocol for the extraction of RNA and DNA from frozen whole blood sample stored in a single EDTA tube.	J Hum Genet. 2021 Jun;66(6):597-606. doi: 10.1038/s10038-020-00889-4.	Original Article
47	Yokotsuka-Ishida S, Nakamura M, Tomiyasu Y, et al.	精神神経科学	Optimized protocol for the extraction of RNA and DNA from frozen whole blood sample stored in a single EDTA tube.	J Hum Genet. 2021 Jun;66(6):597-606. doi: 10.1038/s10038-020-00889-4.	Original Article
48	Yoshino Y, Kumon H, Mori T, et al.	精神神経科学	Positional cloning and comprehensive mutation analysis identified a novel KDM2B mutation in a Japanese family with minor malformations, intellectual disability, and schizophrenia	BMC Genomics. 2021 Apr 20;22(1):287. doi: 10.1186/s12864-021-07612-3.	Original Article
49	Yoshino Y, Kumon H, Mori T, et al.	精神神経科学	Positional cloning and comprehensive mutation analysis identified a novel KDM2B mutation in a Japanese family with minor malformations, intellectual disability, and schizophrenia	BMC Genomics. 2021 Apr 20;22(1):287. doi: 10.1186/s12864-021-07612-3.	Original Article
50	Yoshino Y, Kumon H, Mori T, et al.	精神神経科学	Effects of AGXT2 variants on blood pressure and blood sugar among 750 older Japanese subjects recruited by the complete enumeration survey method.	BMC Genomics. 2021 Apr 20;22(1):287. doi: 10.1186/s12864-021-07612-3.	Original Article
51	Yoshino Y, Roy B, Kumar N, et al.	精神神経科学	Molecular pathology associated with altered synaptic transcriptome in the dorsolateral prefrontal cortex of depressed subjects.	Transl Psychiatry. 2021;11(1):73. doi: 10.1038/s41398-020-01159-9.	Original Article
52	Yoshino Y, Roy B, Dwivedi Y.	精神神経科学	Differential and unique patterns of synaptic miRNA expression in dorsolateral prefrontal cortex of depressed subjects.	Neuropsychopharmacology. 2021 Apr;46(5):900-910. doi: 10.1038/s41386-020-00861-y.	Original Article
53	Sakamoto K, Ogawa K, Tamura K, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Postoperative elevation of C-reactive protein levels and high drain fluid amylase output are strong predictors of pancreatic fistulas after distal pancreatectomy.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2021;28(10):874-882	Original Article
54	Funamizu N, Ozaki T, Mishima K, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Evaluation of accuracy of laparoscopic liver mono-negative segmentectomy using the Glissonian approach with indocyanine green fluorescence negative staining by comparing estimated and actual resection volumes: A single-center.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2021;28(12):1060-1068	Original Article
55	Kasahara M, Umeshita K, Eguchi S, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Outcomes of pediatric liver transplantation in Japan: A report from the registry of the Japanese Liver Transplantation Society.	Transplantation. 2021;105(12):2587-2595	Original Article
56	Uchida H, Sakamoto S, Kasahara M, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	An analysis of the outcomes in living donor liver transplantation for pediatric malignant hepatic tumors using nationwide survey data in Japan.	Transpl Int. 2021;34(6):1408-1421	Original Article
57	Beppu T, Imai K, Honda G, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Proposal of a novel H category-based classification of colorectal liver metastases based on a Japanese nationwide survey.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2021;28(4):317-326	Original Article
58	Nishikawa A, Tanaka K, Miyake Y, et al.	皮膚科学	Active and passive smoking and risk of ulcerative colitis: A case-control study in Japan.	J Gastroenterol Hepatol. 2022; 37(4): 653-659. Epub 2021 Dec 13.	Original Article
59	Murakami M, Kawakami R, Niko Y, et al.	皮膚科学	New fluorescent three-dimensional and deep-imaging technique confirms a direct relationship between the acrosyringium and vesicles/pustules of palmoplantar pustulosis.	J Dermatol Sci. 2021; 102(2): 130-132.	Original Article
60	Nanba D, Toki F, Asakawa K, et al.	皮膚科学	EGFR-mediated epidermal stem cell motility drives skin regeneration through COL17A1 proteolysis	J Cell Biol. 2021; 220(11): e202012073.	Original Article
61	Dai X, Utsunomiya R, Shiraiishi K, et al.	皮膚科学	Nuclear IL-33 Plays an Important Role in the Suppression of FLG, LOR, Keratin 1, and Keratin 10 by IL-4 and IL-13 in Human Keratinocytes	J Invest Dermatol. 2021; 141(11): 2646-2655.e6	Original Article
62	Tohyama M, Matsumoto A, Tsuda T, et al.	皮膚科学	Suppression of IL-17A-induced CCL20 production by cytokine inducible SH2-containing protein 1 in epidermal keratinocytes	J Dermatol Sci. 2021; Mar; 101(3): 202-209.	Original Article
63	Yamanaka S, Miyagawa M, Sugawara Y, et al.	臨床腫瘍学	The prognostic significance of whole-body and spleen MTV (metabolic tumor volume) scanning for patients with diffuse large B cell lymphoma.	Int. J. Clin. Oncol. 26:225-232	Original Article
64	Ohmachi K, Kinoshita T, Tobinai K, et al.	臨床腫瘍学	A randomized phase 2/3 study of R-CHOP vs CHOP combined with dose-dense rituximab for DLBCL: the JCOG0601 trial.	Blood adv. 5: 984-993	Original Article
65	Shimokawa T, Nabeka H, Khan MSJ, et al.	生体構造医学	Prosaposin in the rat oviductal epithelial cells.	Cell Tissue Res. 383(3):1191-1202. doi: 10.1007/s00441-020-03339-x. Epub 2020 Nov 26.	Original Article
66	Ninomiya R, Baba T, Kajiwara T, et al.	生体構造医学	Inhibition of low-density lipoprotein uptake by Helicobacter pylori virulence factor CagA.	Biochem Biophys Res Commun. 556:192-198. doi: 10.1016/j.bbrc.2021.03.170. Epub 2021 Apr 10.	Original Article
67	Taniguchi M, Nabeka H, Yamamiya K, et al.	生体構造医学	The expression of prosaposin and its receptors, GRP37 and GPR37L1, are increased in the developing dorsal root ganglion.	Plos One 16(8):e0255958. doi: 10.1371/journal.pone.0255958. eCollection 2021.	Original Article
68	Takemori A, Ishizaki J, Nakashima K, et al.	生体構造医学	BAC-DROP: Rapid digestion of proteome fractionated via dissolvable polyacrylamide gel electrophoresis and its application to bottom-up proteomics workflow	Journal of Proteome Research. 2021 Mar 5;20(3):1535-1543doi: 10.1021/acs.jproteome.0c00749.	Original Article
69	Yamamoto M, Yanagisawa R, Sakai A, et al.	薬理学	Toxicokinetics of methylmercury in diabetic KK-Ay mice and C57BL/6 mice.	J Appl Toxicol. 41:928-940. doi: 10.1002/jat.4078.	Original Article
70	Takeshita H, Yamamoto K, Mogi M, et al.	薬理学	Double Deletion of Angiotensin II Type 2 and Mas Receptors Accelerates Aging-Related Muscle Weakness in Male Mice.	J Am Heart Assoc. 10:e021030. doi: 10.1161/JAHA.120.021030.	Original Article
71	Sahid MNA, Liu S, Kivori S, et al.	薬理学	Inhibition of histamine release from RBL-2H3 cells by zoledronate did not affect Rab27a/Doc2a interaction: Hint for exocytosis-protein prenylation hierarchy.	Biol. Pharm. Bull. 44. 1902-1906. doi: 10.1248/bpb.b21-00717.	Original Article
72	Abe Y, Toyama K, Kazurayama M, et al.	薬理学	Low-Normal Platelets and Decreasing Platelets Are Risk Factors for Hearing Impairment Development.	Laryngoscope. 131:E1287-E1295. doi: 10.1002/lary.28970.	Original Article
73	Toyama K, Igase M, Spin JM, et al.	薬理学	Exosome miR-501-3p Elevation Contributes to Progression of Vascular Stiffness.	Circ Rep. 17:170-177. doi: 10.1253/circrep.CR-20-0135.	Original Article
74	Iio H, Kikugawa T, Sawada Y, Sakai H, et al.	病態生理学	DNA maintenance methylation enzyme Dnmt1 in satellite cells is essential for muscle regeneration	Biochem Biophys Res Commun. 2021 Jan 1;534:79-85. doi: 10.1016/j.bbrc.2020.11.116.	Original Article
75	Ueyama H, Ohta Y, Imai Y, et al.	病態生理学	Topical co-administration of zoledronate with recombinant human bone morphogenetic protein-2 can induce and maintain bone formation in the bone marrow environment	BMC Musculoskelet Disord. 2021 Jan 20;22(1):94. doi: 10.1186/s12891-021-03971-w.	Original Article
76	Ikedo A, Imai Y.	病態生理学	Estrogen receptor α in mature osteoblasts regulates the late stage of bone regeneration	Biochem Biophys Res Commun. 2021 Jun 25;559:238-244. doi: 10.1016/j.bbrc.2021.04.112.	Original Article

77	Inoue K,* Khan FH,* Remme EW, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Determinants of left atrial reservoir and pump strain and use of atrial strain for evaluation of left ventricular filling pressure.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2021. (Online ahead of print).	Original Article
78	Hirashi H,* Inoue K,* Inaba S, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Restricted left atrial dilatation can visually differentiate cardiac amyloidosis from hypertrophic cardiomyopathy.	ESC heart failure. 2021; 8: 3198-3205.	Original Article
79	Kawakami H, Inoue K, Nagai T, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Persistence of left atrial abnormalities despite left atrial volume normalization after successful ablation of atrial fibrillation.	J Arrhythm. 2021; 37: 1318-1329.	Original Article
80	Kawakami H, Wright L, Nolan M, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Feasibility, Reproducibility, and Clinical Implication of the Novel Fully Automated Assessment for Global Longitudinal Strain.	J Am Soc Echocardiogr. 2021; 34: 136-145.	Original Article
81	Kawakami H, Nolan MT, Phillips K, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Cost-Effectiveness of Combined Catheter Ablation and Left Atrial Appendage Closure for Symptomatic Atrial Fibrillation in Patients with High Stroke and Bleeding Risk.	Am Heart J. 2021; 231: 110-120.	Original Article
82	Nakao Y,* Saito M,* Inoue K, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Cardiac amyloidosis screening using a relative apical sparing pattern in patients with left ventricular hypertrophy.	Cardiovasc Ultrasound. 2021; 19: 30. doi: 10.1186/s12947-021-00258-x.	Original Article
83	Nakao Y, Aono J, Hamaguchi M, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	O-ring-induced Transverse Aortic Constriction (OTAC) is a New Simple Method to Develop Cardiac Hypertrophy and Heart failure in Mice.	Scientific Reports. 2021. (Online ahead of print).	Original Article
84	Nakao Y, Kawakami H, Saito M, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Cost-Effectiveness of Long-Term Tolvaptan Administration for Chronic Heart Failure Treatment in Japan.	J Cardiol. 2021. (Online ahead of print).	Original Article
85	Nakao Y, Inaba S, Kinoshita M, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Usefulness of Intravascular Ultrasound Assessment after development of the Slow Flow Phenomenon during Percutaneous Coronary Intervention.	Coronary artery disease. 2021. (Online ahead of print).	Original Article
86	Nakao Y,* Yoshida K,* Inaba S, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Plaque Characterization with Computed Tomography Angiography Based on a Diluted-contrast Injection Protocol.	Intern Med. 2021; 60: 3671-3678.	Original Article
87	Fuuiisawa T, Suzuki S, Arita T, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Decline in eGFR over time and incidence of cardiovascular events: Shinken database analysis.	J Cardiol. 2021; 77: 626-633.	Original Article
88	Fuuiisawa T, Arita T, Suzuki S, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Relationship between number of medications and incidence of falls or bone fracture in elderly patients with non-valvular atrial fibrillation: Shinken database analysis.	Geriatr Gerontol Int. 2021; 21: 802-809.	Original Article
89	Noguchi M, Dohi T, Okazaki S, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Comparison of 6-month vascular healing response after bioresorbable polymer versus durable polymer drug-eluting stent implantation in patients with acute coronary syndromes: A randomized serial optical coherence tomography study.	Catheter Cardiovasc Interv. 2021; 98: E677-E686.	Original Article
90	Warisawa T, Howard JP, Cook CM, Ahmad Y, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Inter-observer differences in interpretation of coronary pressure-wire pullback data by non-expert interventional cardiologists.	Cardiovasc Interv Ther. 2021; 36: 289-297.	Original Article
91	Ikari Y, Yamada S, Ehara N, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	The Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics position statement on coronary invasive procedures during the COVID-19 pandemic in Japan	Cardiovasc Interv Ther. 2021; 36: 139-144.	Original Article
92	Takeda M, Shimokawa M, Nakamura A, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	A Phase II Study to Assess the Efficacy of Osimertinib in Patients With EGFR Mutation-positive NSCLC Who Developed Isolated CNS Progression (T790M-negative or Unknown) During First- or Second-generation EGFR-TKI or Systemic Disease Progression (T790M-	Clin Lung Cancer. 2021 Jul;22(4):376-380.	Original Article
93	Makita A, Nagao T, Miyoshi K, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	The association between renal elasticity evaluated by Real-time tissue elastography and renal fibrosis	Clin Exp Nephrol. 2021; 25: 981-987.	Original Article
94	Kukida M, Cai L, Ye D, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Renal Angiotensinogen Is Predominantly Liver Derived in Nonhuman Primates.	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2021;41:2851-2853. doi: 10.1161/ATVBAHA.121.316590.	Original Article
95	Chen JZ, Sawada H, Ye D, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Deletion of AT1a (Angiotensin II Type 1a) Receptor or Inhibition of Angiotensinogen Synthesis Attenuates Thoracic Aortopathies in Fibrillin1C1041G/+ Mice.	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2021;41:2538-2550. doi: 10.1161/ATVBAHA.121.315715.	Original Article
96	Kukida M, Sawada H, Ohno-Urabe S, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Effects of Endogenous Angiotensin II on Abdominal Aortic Aneurysms and Atherosclerosis in Angiotensin II-Infused Mice.	J Am Heart Assoc. 2021;10:e020467. doi: 10.1161/JAHA.121.020467.	Original Article
97	Ohno-Urabe S, Kukida M, Franklin MK, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Authentication of In Situ Measurements for Thoracic Aortic Aneurysms in Mice.	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2021;41:2117-2119. doi: 10.1161/ATVBAHA.121.315983.	Original Article
98	Daisuke Ogawa, Shinji Kobayashi, Kenji Yamazaki, et al.	心臓血管・呼吸器外科学	Evaluation of cardiac beat synchronization control for a rotary blood pump on valvular regurgitation with a mathematical model.	Artif Organs. 2021 Feb;45(2):124-134. doi: 10.1111/aor.13795. Epub 2020 Sep 26.	Original Article
99	Yoshifumi Sano, Mikio Okazaki, Hisayuki Shigematsu, et al.	心臓血管・呼吸器外科学	Quality of life after partial lung resection with uniportal versus 3-port video-assisted thoracoscopic surgery: a prospective randomized controlled study.	Surg Today. 2021 Nov;51(11):1755-1763. doi: 10.1007/s00595-021-02294-6. Epub 2021 May 19.	Original Article
100	Kaho Kanno, Tomohisa Sakae, Mika Hamaguchi, et al.	心臓血管・呼吸器外科学	Hypoxic Culture Maintains Cell Growth of the Primary Human Valve Interstitial Cells with Stemness.	Int J Mol Sci. 2021 Sep 29;22(19):10534. doi: 10.3390/jms221910534.	Original Article
101	Manabu Komori, Yuka Morita, Tetsuya Tono, et al.	耳鼻咽喉科学	Nationwide survey of middle ear cholesteatoma surgery cases in Japan: Results from the Japan Otological society registry using the JOS staging and classification system	Auris Nasus Larynx. 48:555-564.2021	Original Article
102	Iwata S, Okada M, Suemori K, et al.	耳鼻咽喉科学	The hearing prognosis of otitis media with ANCA-associated vasculitis	Auris Nasus Larynx. 48:377-382.2021	Original Article
103	Akihiro Inoue, Shohei Kohno, Takanori Ohnishi, et al.	耳鼻咽喉科学	Tricks and traps of ICG endoscopy for effectively applying endoscopic transsphenoidal surgery to pituitary adenoma	Neurosurgical Review 44, 2133-2143, 2021	Original Article
104	Masahiro Okada, Aravindkshan Parthasarathy, D	耳鼻咽喉科学	Idiopathic Sudden Sensorineural Hearing Loss: Speech Intelligibility Deficits Following Threshold Recovery	Ear Hear. 42(4): 782-792, 2021	Original Article
105	Yuki Hosokawa, Masahiro Okada, Koichiro Suemori, et al.	耳鼻咽喉科学	The association between ear involvement and clinical features and prognosis in ANCA-associated vasculitis	Auris Nasus Larynx. 48:2-14.2021	Original Article
106	Takahiro Nakata, Masahiro Okada, Takahiro	耳鼻咽喉科学	Association of the prognosis and severity of idiopathic sudden sensorineural hearing loss with cervical ultrasonographic findings	Auris Nasus Larynx. 48:1074-1080.2021	Original Article
107	Ando W, Sakai T, Fukushima W, et al.	整形外科	Japanese Orthopaedic Association 2019 Guidelines for osteonecrosis of the femoral head	J Orthop Sci. 26(1):46-68	Original Article
108	Kinoshita T, Hino K, Kutsuna T, et al.	整形外科	Rotational soft-tissue balance is highly correlated with rotational kinematics in total knee arthroplasty	J Knee Surg. 2021 May 15. doi: 10.1055/s-0041-1729619.	Original Article
109	Kivomatsu H, Takeba J, Imai H, et al.	整形外科	Treatment of osteochondritis dissecans of the humeral capitellum with a fragment fixation method using absorbable pins	JSES Int. 2021 Mar 8;5(3):564-570. doi: 10.1016/j.jseint.2020.12.017.	Original Article
110	Kinoshita T, Hino K, Kutsuna T, et al.	整形外科	Gender-specific difference in the recurrence of flexion contracture after total knee arthroplasty	J Exp Orthop. 2021 Oct 6;8(1):87. doi: 10.1186/s40634-021-00409-z.	Original Article
111	Kinoshita T, Hino K, Kutsuna T, et al.	整形外科	Efficacy of posterior capsular release for flexion contracture in posterior-stabilized total knee arthroplasty	J Exp Orthop. 2021 Nov 4;8(1):102. doi: 10.1186/s40634-021-00422-z.	Original Article
112	Miyoshi S, Morino T, Takeda H, et al.	整形外科	Thoracic Spondylotic Myelopathy Presumably Caused by Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis in a Patient Who Underwent Decompression and Percutaneous Pedicle Screw Fixation	SAGE Open Med Case Rep 2021 Jan 21;9:2050313X20987796.	Original Article
113	Fujibuchi T, Imai H, Mhyawaki J, et al.	整形外科	Hand tumors: A review of 186 patients at a single institute	J Orthop Surg (Hong Kong). Jan-Apr 2021;29(1):2309499021993994. doi: 10.1177/2309499021993994.	Original Article
114	Murakami Y, Morino T, Hino M, et al.	整形外科	A scoring system for anterior longitudinal ligament ossification of the lumbar spine in diffuse idiopathic skeletal hyperostosis: Relationship between the extent of ligament ossification and the range of motion	Global Spine J. 2021 Mar 3;2192568221996681. doi: 10.1177/2192568221996681.	Original Article
115	Nakasaka M, Morino T, Hino M, et al.	整形外科	Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis: a Potential Factor in the Induction of Thoracic Spondylotic Myelopathy	J Orthop Sci. 2021 Jan;26(1):75-78. doi: 10.1016/j.jos.2020.01.009. Epub 2020 Feb 13.	Original Article
116	Murakami Y, Morino T, Masavuki H, et al.	整形外科	Progression of Ossification of the Anterior Longitudinal Ligament Associated With Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis by Age: A Study of Computed Tomography Findings Over 5 Years	Global Spine J. 2021 Jun;11(5):656-661. doi: 10.1177/2192568220918817. Epub 2020 Apr 13.	Original Article

117	Nakajima K, Kidani I, Mura H	整形外科学	Molecular profiling of bone remodeling occurring in musculoskeletal tumors	J Orthop Res. 2021 Jul;39(7):1402-1410. doi: 10.1002/jor.24879. Epub 2021 Feb 1.	Original Article
118	Kido T, Kuniaki Hirai, Ryo Ogawa, et al.	放射線医学	Comparison between conventional and compressed sensing cine cardiovascular magnetic resonance for feature tracking global circumferential strain assessment	J Cardiovasc Magn Reson. 2021; 23: 10.	Original Article
119	Megumi Matsuda, Takaharu Tsuda, Rui Ebihara, et al.	放射線医学	Enhanced Masses on Contrast-Enhanced Breast: Differentiation Using a Combination of Dynamic Contrast-Enhanced MRI and Quantitative Evaluation with Synthetic MRI.	J Magn Reson Imaging. 2021 Feb;53(2):381-391.	Original Article
120	Makita K, Hamamoto Y, Takata N, et al.	放射線医学	Impact of inflammatory response markers on treatment outcomes in patients with locally advanced squamous cell carcinoma of the external auditory canal and middle ear	J. Radiat. Res 2021, 62(4): 662-8.	Original Article
121	Ogawa R, Kido T, Nakamura M, et al.	放射線医学	Reconstruction of Cardiovascular Black-Blood T2 Weighted Image by Deep Learning Algorithm: a Comparison with Intensity Filter	Acta Radiol Open. 2021 Sep 26;10(9)	Original Article
122	Megumi Matsuda, Takaharu Tsuda, Rui Ebihara, et al.	放射線医学	Triple-negative breast cancer on contrast-enhanced MRI and synthetic MRI: A comparison with non-triple-negative breast carcinoma	Eur J Radiol.2021 Sep;142:109838.	Original Article
123	Noriko Takata, Masao Miyagawa, Takuya Matsuda, et al.	放射線医学	Usefulness of albumin-globulin ratio as a clinical prognostic factor in patients with thyroid cancer treated with radioiodine	Annals of nuclear medicine 35(9) 1015-1021 Sep. 2021	Original Article
124	Makita K, Hamamoto Y, Kanzaki H, et al.	放射線医学	Local Control of Bone Metastases Treated with External Beam Radiotherapy in Recent Years: A Multicenter Retrospective Study	Radiation Oncology. 2021, 16: 225.	Original Article
125	Einstein AJ, Miyagawa M, Ishimura H, et al.	放射線医学	International Impact of COVID-19 on the Diagnosis of Heart Disease	J Am Coll Cardiol. 2021 Jan 19;77(2):173-185.	Original Article
126	Yamagishi M, Kido T, Kurata A, et al.	放射線医学	Japanese Circulation Society Working Group. JCS 2018 Guideline on Diagnosis of Chronic Coronary Heart Diseases	Circ J. 2021 Mar 25;85(4):402-572.	Original Article
127	Kinoshita M, Tanabe Y, Yoshida K, et al.	放射線医学	Left ventricular longitudinal strain is a major determinant of CT-derived three-dimensional maximum principal strain: comparison with two-dimensional speckle tracking echocardiography	Heart Vessels. 2021 Jul 7. doi: 10.1007/s00380-021-01901-3. Online ahead of print	Original Article
128	Hirschfeld CB, Miyagawa M, Ishimura H	放射線医学	Impact of COVID-19 on Cardiovascular Testing in the United States Versus the Rest of the World	JACC Cardiovasc Imaging. 2021 Sep;14(9):1787-1799.	Original Article
129	Kitagawa K, Nakamura S, Ota H, et al.	放射線医学	Diagnostic Performance of Dynamic Myocardial Perfusion Imaging Using Dual-Source Computed Tomography	J Am Coll Cardiol. 2021 Nov 16;78(20):1937-1949.	Original Article
130	Yoshikawa K, Mizoue S, Nitta K, et al.	眼科学	Stratification-Based Investigation of Adjunctive Brimonidine or Timolol to a Prostaglandin Analogue in Japanese Patients with Normal-Tension Glaucoma.	Clin Ophthalmol. Jul 6; 15: 2875-2883. 2021.	Original Article
131	Goto T, Shiraishi A, Ohashi Y, et al.	眼科学	A multicenter clinical trial of orthokeratology in school-aged children and adolescents in Japan.	Jpn J Ophthalmol. Sep; 65(5): 624-631. 2021.	Original Article
132	Iimori H, Suzuki H, Komori M, et al.	眼科学	Clinical findings of acute acquired comitant esotropia in young patients.	Jpn J Ophthalmol. 2022Jan;66(1):87-93.	Original Article
133	Mori S, Tanito M, Shoji N, et al.	眼科学	Noninferiority of Microhook to Trabectome: Trabectome versus Ab Interno Microhook Trabectulotomy Comparative Study (Tram Trac Study).	Ophthalmol Glaucoma. Nov 25: S2589-4196(21) 00272-6. 2021.	Original Article
134	Zheng X, Yamada H, Mitani A, et al.	眼科学	Improvement of visual function and ocular and systemic symptoms following blepharoptosis surgery.	Orbit. Jun; 40(3): 199-205. 2021.	Original Article
135	Matsuo M, Mizoue S, Nitta K, et al.	眼科学	Intraobserver and interobserver agreement among anterior chamber angle evaluations using automated 360-degree gonio-photos.	PLoS One. May 6; 16(5): e0251249. 2021.	Original Article
136	Sugihara K, Takai Y, Kawasaki R, et al.	眼科学	Comparisons between retinal vessel calibers and various optic disc morphologic parameters with different optic disc appearances: The Glaucoma Stereo Analysis Study.	PLoS One. Jul 29; 16(7): e0250245. 2021.	Original Article
137	Hasegawa T, Nakashiro K, Fukumoto C, et al.	口腔顎顔面外科学	Oral squamous cell carcinoma may originate from bone marrow-derived stem cells.	Oncol Lett. 21(2): 170. 2021	Original Article
138	Tokuzen N, Nakashiro K, Toio S, et al.	口腔顎顔面外科学	Human papillomavirus-16 infection and p16 expression in oral squamous cell carcinoma.	Oncol Lett. 22(1): 528. 2021	Original Article
139	Tsubura-Okubo M, Komiyama Y, Kamimura R, et al.	口腔顎顔面外科学	Oral management with polaprezinc solution reduces adverse events in haematopoietic stem cell transplantation patients.	Int J Oral Maxillofac Surg. 50(7): 906-914. 2021	Original Article
140	Kamimura R, Uchida D, Kanno SI, et al.	口腔顎顔面外科学	Identification of Binding Proteins for TSC22D1 Family Proteins Using Mass Spectrometry.	Int J Mol Sci. 22(20): 10913. 2021	Original Article
141	Ramaprasad A, Klaus S, Douvropoulou O, et al.	分子寄生虫学	Plasmodium vinckei genomes provide insights into the pan-genome and evolution of rodent malaria parasites.	BMC Biol. 23:19(1):69. doi: 10.1186/s12915-021-00995-5.PMID: 33888092	Original Article
142	Munyeku YB, Musaka AA, Ernest M, et al.	分子寄生虫学	Prevalence of Plasmodium falciparum isolates lacking the histidine rich protein 2 gene among symptomatic malaria patients in Kwilu Province of the Democratic Republic of Congo.	Infect Dis Poverty. 25:10(1):77. doi: 10.1186/s40249-021-00860-1.PMID: 34034827	Original Article
143	Nundu SS, Culleton R, Simpson SV, et al.	分子寄生虫学	Malaria parasite species composition of Plasmodium infections among asymptomatic and symptomatic school-age children in rural and urban areas of Kinshasa, Democratic Republic of Congo.	Malar J. 2:20(1):389. doi: 10.1186/s12936-021-03919-4.PMID: 34600558	Original Article
144	Tachibana M, Inko H, Baba M, et al.	分子寄生虫学	PSOP1, putative secreted ookinete protein 1, is localized to the micronemes of Plasmodium yoelii and P. berghei ookinetes	Parasitol Int. 84:102407. doi: 10.1016/j.parint.2021.102407.	Original Article
145	Mourier T, de Alvarenga DAM, Kaushik A, et al.	分子寄生虫学	The genome of the zoonotic malaria parasite Plasmodium simium reveals adaptations to host-switching	BMC Biology 19:219 1-22 doi: 10.1186/s12915-021-01139-5	Original Article
146	Shang X, Shen S, Tang J, et al.	分子寄生虫学	A cascade of transcriptional repression determines sexual commitment and development in Plasmodium falciparum	Nucleic Acids Res. 49 (16), 9264-9279 DOI: 10.1093/nar/gkab683	Original Article
147	Naserrudin NAB, Abdul Aziz EIB, Aljet E, et al.	分子寄生虫学	High incidence of asymptomatic cases during an outbreak of Plasmodium malariae in a remote village of Malaysian Borneo	PLoS Negl Trop Dis. 15(6): e0009450 DOI: 10.1371/journal.pntd.0009450	Original Article
148	Lu B, Liu M, Gu L, et al.	分子寄生虫学	The architectural factor HMGB1 is involved in genome organization in the human malaria parasite Plasmodium falciparum	mBio 12 (2) e00148-21 DOI: 10.1128/mBio.00148-21	Original Article
149	Choudhury ME, Mikami K, Nakanishi Y, et al.	免疫学・感染防御学	Insomnia and depressive behavior of MyD88-deficient mice: Relationships with altered microglial functions	J Neuroimmunol.(2021) doi: 10.1016/j.jneuroim.2021.577794.	Original Article
150	Konishi A, Suzuki J, Kuwahara M, et al.	免疫学・感染防御学	Glucocorticoid imprints a low glucose metabolism onto CD8 T cells and induces the persistent suppression of the immune response.	Biochem. Biophys. Res. Commun. (2021) https://doi.org/10.1016/j.bbrc.2021.12.050	Original Article
151	Inoue T, Omori-Miyake M, Maruyama S, et al.	免疫学・感染防御学	The Loss of H3K27 Histone Demethylase Utx in T Cells Aggravates Allergic Contact Dermatitis.	J Immunol. (2021) doi: 10.4049/jimmunol.2001160.	Original Article
152	Kitazawa S, Takaoka Y, Ueda Y, et al.	分子病理学	Identification of Calmodulin-like Protein 5 as Tumor-suppressor Gene Silenced During Early Stage of Carcinogenesis in Squamous Cell Carcinoma of Uterine Cervix	Int J Cancer 149(6):1358-1368	Original Article
153	Haraguchi R, Yamada G, Murashima A, et al.	分子病理学	New Insights into Development of Female Reproductive Tract-Hedgehog-Signal Response in Wolffian Tissues Directly Contributes to Uterus Development	Int J Mol Sci 22(3):1211(1-12)	Original Article
154	Chen H, Xiang Y, Yin Y, et al.	分子病理学	The m6A Methyltransferase METTL3 Regulates Autophagy and Sensitivity to Cisplatin by Targeting ATG5 in Seminoma	Translational Andrology and Urology 10:1711-1722	Original Article
155	Miyabe N, Hosokawa Y, Yoshida A, et al.	臨床薬理学	Fasting state is one of the factors associated with plasma levodopa fluctuations during levodopa-carbidopa intestinal gel treatment.	Parkinsonism Relat Disord. 2021; 91:55-58. doi: 10.1016/j.parkreldis.2021.09.001.	Original Article
156	Sada H, Egi H, Ide K, et al.	消化管・腫瘍外科学	Peritoneal lavage with hydrogen-rich saline can be an effective and practical procedure for acute peritonitis	Surg Today. 51(11). 2021, 1860-1871. doi: 10.1007/s00595-021-02271-z. Epub 2021 Mar 31	Original Article

157	Egi H, Ohnishi K, Akita S, et al.	消化管・腫瘍外科学	The arrival time of Indocyanine Green in tissues can be a quantitative index because of its correlation with tissue oxygen saturation: A clinical pilot study	Asian J Endosc Surg. 2021. doi: 10.1111/ases.13002.	Original Article
158	Hironori Matsumoto, Kei Ishimaru, Satoshi Kikuchi, et al.	消化管・腫瘍外科学	Perioperative coagulofibrinolytic responses in colorectal surgery patients without chemical thromboprophylaxis: a retrospective observational study	Springer. 2021. doi: 10.1007/s00595-021-02393-4. Epub 2021 Oct 25.	Original Article
159	Fukuhara S, Egi H, Kochi M, et al.	消化管・腫瘍外科学	The characteristics of residual pneumoperitoneum after laparoscopic colorectal surgery	Asian J Endosc Surg. 2021. doi: 10.1111/ases.13009.	Original Article
160	Yokoyama M, Tanaka K, Sugiyama T, et al.	産婦人科学	Cesarean section is associated with increased risk of postpartum depressive symptoms in Japan: the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study.	J Affect Disord. 2021;278:497-501.	Original Article
161	Yasuoka T, Iwama N, Ota K, et al.	産婦人科学	Pregnancy outcomes in children, adolescents, and young adults that survived cancer: A nationwide survey in Japan.	J Obstet Gynaecol Res. 2021 47:3352-3361.	Original Article
162	Kawasaki M, Mito A, Waguri M, et al.	産婦人科学	Protocol for an interventional study to reduce postpartum weight retention in obese mothers using the internet of things and a mobile application: a randomized controlled trial (SpringMom).	BMC Pregnancy Childbirth. 2021;21:582.	Original Article
163	Chu LCH, Sugiyama T, Ma RCW.	産婦人科学	Recent updates and future perspectives on gestational diabetes mellitus: An important public health challenge.	J Diabetes Investig. 2021;12:1944-1947.	Original Article
164	Sasaki Y, Matsubara K, Sago H	産婦人科学	Japan N. I. P. T. Consortium. Evaluation of the clinical performance of noninvasive prenatal testing at a Japanese laboratory.	J Obstet Gynaecol Res. 2021 47(10): 3437-3446.	Original Article
165	Inada, T, K. Kobayashi, T. Kikuchi, et al.	脳神経外科学	"Effects of a stable concentration of propofol on interictal high-frequency oscillations in drug-resistant epilepsy."	Epileptic Disord 23(2): 299-312, 2021	Original Article
166	Inoue, A., M. Nishikawa, T. Ohnishi, et al.	脳神経外科学	"Prediction of glioma stem-like cell infiltration in the non-contrast-enhancing area by quantitative measurement of lactate on magnetic resonance spectroscopy in glioblastoma."	World Neurosurg. 2021, Sep;153:e76-e95. Doi:10.1016/j.wneu.2021.06.044.	Original Article
167	Inoue, A., T. Ohnishi, S. Kohno, et al.	脳神経外科学	"Met-PET uptake index for total tumor resection: identification of (11)C-methionine uptake index as a goal for total tumor resection including infiltrating tumor cells in glioblastoma."	Neurosurg Rev 44(1): 587-597, 2021	Original Article
168	Kobayashi K, R. Matsumoto, K. Usami, et al.	脳神経外科学	"Cortico-cortical evoked potential by single-pulse electrical stimulation is a generally safe procedure."	Clin Neurophysiol 132(5): 1033-1040, 2021	Original Article
169	Kumon Y., H. Watanabe, M. Tagawa, et al.	脳神経外科学	"Relationship between Deep White Matter Hyperintensities on Magnetic Resonance Imaging and Postoperative Cognitive Function Following Clipping of Unruptured Intracranial Aneurysm."	Neurol Med Chir (Tokyo) 61(2): 152-161, 2021	Original Article
170	Nishikawa, M., A. Inoue, T. Ohnishi, et al.	脳神経外科学	"Hypoxia-induced phenotypic transition from highly invasive to less invasive tumors in glioma stem-like cells: Significance of CD44 and osteopontin as therapeutic targets in glioblastoma."	Transl Oncol 14(8): 101137, 2021	Original Article
171	Sato, N., R. Matsumoto, A. Shimotake, et al.	脳神経外科学	"Frequency-Dependent Cortical Interactions during Semantic Processing: An Electroencephalogram Cross-spectrum Analysis Using a Semantic Space Model."	Cereb Cortex. 2021	Original Article
172	Yamao, Y., R. Matsumoto, T. Kikuchi, et al.	脳神経外科学	"Intraoperative Brain Mapping by Cortico-Cortical Evoked Potential."	Front Hum Neurosci 15: 635453, 2021	Original Article
173	Yamao, Y., R. Matsumoto, T. Kunieda, et al.	脳神経外科学	"Effects of propofol on cortico-cortical evoked potentials in the dorsal language white matter pathway."	Clin Neurophysiol 132(8): 1919-1926, 2021	Original Article
174	Yamashita, D. S. Suehiro, S. Kohno, et al.	脳神経外科学	"Intracranial anaplastic solitary fibrous tumor/hemangiopericytoma: immunohistochemical markers for definitive diagnosis."	Neurosurg Rev 44(3): 1591-1600, 2021	Original Article
175	Abe K, Horisawa S, Yamaguchi T, et al.	脳神経外科学	Focused ultrasound thalamotomy for refractory essential tremor: A Japanese multicenter single-arm study.	Neurosurgery 2021 Mar 15. 88(4):751-757.	Original Article
176	Keisuke Takai, Toshiaki Endo, Takao Yasuhara, et al.	脳神経外科学	Neurosurgical versus endovascular treatment of spinal dural arteriovenous fistulas: a multicenter study of 195 patients	J Neurosurg Spine 34:514-521,2021	Original Article
177	Igase M, Okada Y, Igase K, et al.	脳神経外科学	Casein Hydrolysate Containing Milk-Derived Peptides Reduces Facial Pigmentation Partly by Decreasing Advanced Glycation End Products in the Skin: A Randomized Double-Blind Placebo-Controlled Trial.	Rejuvenation Res. 24: 97-103, 2021	Original Article
178	Kanamori M, Takami H, Suzuki T, et al.	脳神経外科学	Necessity for craniospinal irradiation of germinoma with positive cytology without spinal lesion on MR imaging-A controversy.	Neurorol Adv. 3 2021	Original Article
179	Iuchi T, Inoue A, Hirose Y, et al.	脳神経外科学	Long-term effectiveness of Gliadel implant for malignant glioma and prognostic factors for survival: 3-year results of a postmarketing surveillance in Japan	Neurorol Adv. 4 2022	Original Article
180	Waichi Yamamoto, Tasuku Nishihara, Taisuke Hamada, et al.	麻酔・周術期学	Independent Predicting Factors for Subcutaneous Emphysema Associated with Robotic-Assisted Laparoscopic Radical Prostatectomy: A Retrospective Single-Center Study.	J Clin Med. 2021 Jul 4;10(13):2985. doi: 10.3390/jcm10132985.	Original Article
181	Tokinobu A, Tanaka K, Arakawa M, et al.	疫学・公衆衛生学	Maternal use of induction heating cookers during pregnancy and birth outcomes: the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study.	Bioelectromagnetics. 42: 329-335. doi: 10.1002/bem.22339	Original Article
182	Tanaka K, Okubo H, Sasaki S, et al.	疫学・公衆衛生学	Maternal caffeine intake during pregnancy and risk of food allergy in young Japanese children.	J Paediatr Child Health. 57: 903-907. doi: 10.1111/jpc.15351	Original Article
183	Miyake Y, Tanaka K, Nagata C, et al.	疫学・公衆衛生学	Dietary intake of vegetables, fruit, and antioxidants and risk of ulcerative colitis: a case-control study in Japan.	Nutrition. 91-92: 111378. doi: 10.1016/j.nut.2021.111378	Original Article
184	Takahashi K, Tanaka K, Nakamura Y, et al.	疫学・公衆衛生学	Calcium intake during pregnancy is associated with decreased risk of emotional and hyperactivity problems in five-year-old Japanese children.	Nutr Neurosci. 24: 762-769. doi: 10.1080/1028415X.2019.1676971.	Original Article
185	Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, et al.	疫学・公衆衛生学	Maternal consumption of soy and isoflavones during pregnancy and risk of childhood behavioral problems: The Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study.	Int J Food Sci Nutr. 72: 1118-1127. doi: 10.1080/09637486.2021.1904844.	Original Article
186	Tanaka K, Kimura E, Oruyoji K, et al.	疫学・公衆衛生学	Hypertension and dyslipidemia are risk factors for herpes zoster in patients with rheumatoid arthritis: a retrospective analysis using a medical information database.	Rheumatol Int. 41(9): 1633-1639. doi: 10.1007/s00296-021-04889-1.	Original Article
187	Tanaka K, Okada M, Kato H, et al.	疫学・公衆衛生学	Higher number of teeth is associated with decreased prevalence of hearing impairment in Japan.	Arch Gerontol Geriatr. 97: 104502. doi: 10.1016/j.archger.2021.104502.	Original Article
188	Miyake Y, Tanaka K, Senba H, et al.	疫学・公衆衛生学	Education and household income and carotid intima-media thickness in Japan: baseline data from the Aida Cohort Study in Yawatahama, Uchiko, Seiyu, and Ainan.	Environ Health Prev Med. 26: 88. doi: 10.1186/s12199-021-01011-6.	Original Article
189	Mitani S, Nishio N, Kitani T, et al.	疫学・公衆衛生学	Verbalization, Categorization, and Evaluation of Fundamental Surgical Skills	Annals of Surgery Open. 2(2): e059. doi: 10.1097/AS9.0000000000000059.	Original Article
190	Doi M, Nishimukai H, Asano M (2021)	法医学	Application of fragment analysis based on methylation status mobility difference to identify vaginal secretions.	Sci Justice. 2021; 61: 384-390. doi: 10.1016/j.scjus.2021.03.005	Original Article
191	Kondo T, Takahashi M, Yamasaki G, et al.	法医学	Immunohistochemical analysis of thrombomodulin expression in myocardial tissue from autopsy cases of ischemic heart disease.	Leg Med. 2021; 51: 101897. doi: 10.1016/j.legmed.2021.101897. Epub 2021 Apr 24.	Original Article
192	Tabara Y, Okada Y, Ochi M, et al.	脳神経内科・老年医学	Different associations of skeletal muscle mass index and creatinine-to-cystatin C ratio with muscle mass and myosteatosis: the J-SHIP study.	J Am Med Dir Assoc 22: 2600-2602	Original Article
193	Tabara Y, Okada Y, Ochi M, et al.	脳神経内科・老年医学	Association of creatinine-to-cystatin C ratio with myosteatosis and physical performance in older adults: the Japan Shimanami Health Promoting Program.	J Am Med Dir Assoc 22: 2366-2372	Original Article
194	Senzaki K, Okada Y, Ochi H, et al.	脳神経内科・老年医学	Vascular endothelial dysfunction associated with severity in multiple sclerosis.	Mult Scler Relat Disord 54: 103135	Original Article
195	Chen J, Spracklen CN, Marenne G, et al.	脳神経内科・老年医学	The trans-ancestral genomic architecture of glycemic traits.	Nat Genet 53: 840-860	Original Article
196	Furukawa Y, Okuyama S, Amakura Y, et al.	脳神経内科・老年医学	Isolation and characterization of neuroprotective components from citrus peel and their application as functional food.	Chem Pharm Bull (Tokyo) 69: 2-10	Original Article

197	Syaifulah AH, Shiino A, Fujiyoshi A, et al.	脳神経内科・老年医学	Alcohol drinking and brain morphometry in apparently healthy community-dwelling Japanese men.	Alcohol 90: 57-65	Original Article
198	Miura S, Kamada T, Fujioka R, et al.	脳神経内科・老年医学	Plasma amino acids in patients with essential tremor.	Clin Case Rep 9: e04580	Original Article
199	Watanabe M, Nakamura Y, Sato S, et al.	脳神経内科・老年医学	HLA genotype-clinical phenotype correlations in multiple sclerosis and neuromyelitis optica spectrum disorders based on Japan. MS/NMOSD Biobank data.	Sci Rep 11: 607	Original Article
200	Asida S, Ochi H, Hamatani M, et al.	脳神経内科・老年医学	Immune skew of circulating follicular helper T cells associates with myasthenia gravis severity.	Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm 8: e945	Original Article
201	Morikawa T, Miura S, Tateishi T, et al.	脳神経内科・老年医学	A Japanese hereditary spastic paraplegia family with a rare nonsynonymous variant in the SPAST gene.	Hum Genome Var 8: 21	Original Article
202	Miura S, Shimojo T, Morikawa T, et al.	脳神経内科・老年医学	Familial paroxysmal kinesigenic dyskinesia with a novel missense variant (Arg2866Trp) in NBEA.	J Hum Genet 66: 805-811	Original Article
203	Morikawa T, Ohishi H, Kosaka K, et al.	脳神経内科・老年医学	<i>Dhhd1</i> knockout mouse as a model of locomotive and physiological abnormality in familial spastic paraplegia.	Biosci Rep 41: BSR20204171	Original Article
204	Kawamoto R, Kikuchi A, Akase T, et al.	地域医療学	Alcohol consumption and serum uric acid are synergistically associated with renal dysfunction among community-dwelling persons.	J Clin Lab Anal. 2021; 35(6): e23812.	Original Article
205	Kawamoto R, Kikuchi A, Akase T, et al.	地域医療学	Low density lipoprotein cholesterol and all-cause mortality rate: findings from a study on Japanese community-dwelling persons.	Lipids Health Dis. 2021; 20(1): 105.	Original Article
206	Kawamoto R, Kikuchi A, Akase T, et al.	地域医療学	Thigh circumference and handgrip strength are significantly associated with all-cause mortality: findings from a study on Japanese community-dwelling persons.	Eur Geriatr Med. 2021; 12(6): 1191-1200.	Original Article
207	Hamada M, Shigematsu Y, Nakata S, et al.	地域救急医療学	Predicting the clinical course in hypertrophic cardiomyopathy using thallium-201 myocardial scintigraphy.	ESC Heart Fail. 2021; 8: 1378-1387.	Original Article
208	Hamada M, Shigematsu Y, Ikeda S, et al.	地域救急医療学	Impact of cibenzoline treatment on left ventricular remodelling and prognosis in hypertrophic obstructive cardiomyopathy.	ESC Heart Fail. 2021. (Online ahead of print).	Original Article
209	Sueda S, Sakae T.	地域救急医療学	Sex-related Differences in Patients with Positive Coronary Spasm as Identified by Acetylcholine Testing.	Intern Med. 2021 Feb 15.	Original Article
210	Shiraishi K, Furukawa S, Yagi S, et al.	地域救急医療学	Association between serum bilirubin and mucosal healing among Japanese patients with ulcerative colitis: a cross-sectional study.	Int J Colorectal Dis. 2021 Feb;36(2):377-382.	Original Article
211	Koizumi M, Watanabe T, Masumoto J, et al.	地域救急医療学	Apoptosis-associated speck-like protein containing a CARD regulates the growth of pancreatic ductal adenocarcinoma.	Scientific Reports. 2021;11(1):22351.	Original Article
212	Terao T, Kumagi T, Hyodo I, et al.	地域救急医療学	Pancreato-Cholangioly (EPOCH) Study Group. Simple prognostic markers for optimal treatment of patients with unresectable pancreatic cancer.	Medicine. 2021;109(43):e27591.	Original Article
213	Imamura Y, Kumagi T, Kuroda T, et al.	地域救急医療学	Pancreas stiffness in liver cirrhosis is an indicator of insulin secretion caused by portal hypertension and pancreatic congestion.	Hepato Res. 2021;51(7):775-785.	Original Article
214	Sueda S, Sakae T.	地域救急医療学	Coronary artery spasm-induced acute myocardial infarction in patients with myocardial infarction with non-obstructive coronary arteries.	Heart Vessels. 2021 Dec;36(12):1804-1810.	Original Article
215	Sueda S, Fujimoto K, Sasaki Y, et al.	地域救急医療学	Catheter-induced Spasm in the Proximal Right Coronary Artery.	Intern Med. 2019 Jan 1;58(1):21-30.	Original Article
216	Sueda S, Sakae T.	地域救急医療学	Coincidence between spontaneous and inducible coronary spasm: acetylcholine test is clinically valued for diagnosing coronary spasm.	Heart Vessels. 2021 Jun;36(6):749-755.	Original Article
217	Takahashi K, Sasaki D, Yamashita M, et al.	地域救急医療学	Amyloid deposit corresponds to technetium-99mphyosphosphate accumulation in abdominal fat of patients with transthyretin cardiac amyloidosis.	Journal of Nuclear Cardiology. https://doi.org/10.1007/s12350-021-02890-6 . (Online ahead of print)	Original Article
218	Matsumoto H, Takeba J, Umakoshi K, et al.	救急航空医療学	ADAMTS13 activity decreases in the early phase of trauma associated with coagulopathy and systemic inflammation: a prospective observational study.	Thromb J. 19:17. doi: 10.1186/s12959-021-00270-1.	Original Article
219	Kamao T, Zheng X, Shiraishi A.	視機能再生学	Outcomes of bicanalicular nasal stent inserted by sheath-guided dacryocystoscopy in patients with lacrimal passage obstruction: a retrospective observational study.	BMC Ophthalmol. Feb 25; 21(1): 103. 2021.	Original Article
220	Miyake T, Miyazaki M, Yoshida O, et al.	地域生活習慣病・内分泌講座	Relationship between body composition and the histology of non-alcoholic fatty liver disease: a cross-sectional study	BMC Gastroenterol 21: 170. 2021	Original Article
221	Miyake T, Matsuura B, Furukawa S, et al.	地域生活習慣病・内分泌講座	Non-alcoholic fatty liver disease is a risk factor for glucose intolerance onset in men regardless of alanine aminotransferase status	J Diabetes Investig 12: 1890-1898. 2021	Original Article
222	Hiraoka A, Kato M, Marui K, et al.	地域生活習慣病・内分泌講座	Easy clinical predictor for low BCAA to tyrosine ratio in chronic liver disease patients with hepatocellular carcinoma: Usefulness of ALBI score as nutritional prognostic marker	Cancer Med 10: 3584-3592. 2021	Original Article
223	Hiraoka A, Onishi M, Koyama S, et al.	地域生活習慣病・内分泌講座	Factors related to sleeping disorder due to pruritus in patients with chronic liver disease	Intern Med 60: 3195-3203. 2021	Original Article
224	Hanayama M, Yamamoto Y, Utsunomiya H, et al.	地域生活習慣病・内分泌講座	The mechanism of increased intestinal palmitic acid absorption and its impact on hepatic stellate cell activation in nonalcoholic steatohepatitis	Sci Rep 11: 13380. 2021	Original Article
225	Kitahata S, Yamamoto Y, Yoshida O, et al.	地域消化器免疫医療学	Ileal mucosa-associated microbiota overgrowth associated with pathogenesis of primary biliary cholangitis.	Sci Rep. 2021 Oct 5;11(1):19705. doi: 10.1038/s41598-021-99314-9.	Original Article
226	Furukawa S, Ikeda Y, Yagi S, et al.	地域消化器免疫医療学	Association Between Peripheral Blood Neutrophil Count and Mucosal Healing in Japanese Patients With Ulcerative Colitis.	Clin Transl Gastroenterol. 2021 Nov 18;12(11):e00429. doi: 10.14309/ctg.0000000000000429.	Original Article
227	Yamamoto Y, Furukawa S, Watanabe J, et al.	地域消化器免疫医療学	Positive Association Between Sleep Disturbance and Prevalence of Functional Dyspepsia in Japanese Young People.	Dig Dis Sci. 2021 Oct 7. doi: 10.1007/s10620-021-07260-3.	Original Article
228	Furukawa S, Yagi S, Shiraishi K, et al.	地域消化器免疫医療学	The inverse association between unhealthy eating habit and mucosal healing among patients with ulcerative colitis.	BMC Gastroenterol. 2021 Apr 7;21(1):152. doi: 10.1186/s12876-021-01724-6.	Original Article
229	Yagi S, Furukawa S, Shiraishi K, et al.	地域消化器免疫医療学	Effect of disease duration on the association between serum albumin and mucosal healing in patients with ulcerative colitis.	BMJ Open Gastroenterol. 2021 Jun;8(1):e000662. doi: 10.1136/bmjgast-2021-000662.	Original Article
230	Furukawa S, Yamamoto Y, Watanabe J, et al.	地域消化器免疫医療学	Frequency, Intensity, and Partner of Exercise Habit Is Inversely Associated with Functional Dyspepsia in Young Japanese Population.	Dig Dis Sci. 2021 May 4. doi: 10.1007/s10620-021-07017-y.	Original Article
231	Watanabe J, Furukawa S, Yagi S, et al.	地域消化器免疫医療学	Time spent per day in strenuous activity and total physical activity are inversely associated with mucosal healing but not with clinical remission in patients with ulcerative colitis.	Ann Gastroenterol. 2021 Nov-Dec;34(6):796-801. doi: 10.20524/aog.2021.0663.	Original Article
232	van der Kamp LT, Rinkel GJE, Verbaan D, et al.	脳神経先端医療学	Risk of Rupture After Intracranial Aneurysm Growth.	JAMA Neurol. 78: 1228-1235. 2021	Original Article
233	Igase M, Igase K, Okada Y, et al.	脳神経先端医療学	Low Carotid Flow Pulsatility Index Correlates With the Presence of Unruptured Intracranial Aneurysms.	J Am Heart Assoc. 10: e018626. 2021	Original Article
234	Nozami N, Barlesi F, Socinski MA, et al.	地域胸部疾患治療学	IMpower150 Final Exploratory Analyses for Atezolizumab Plus Bevacizumab and Chemotherapy in Key NSCLC Patient Subgroups With EGFR Mutations or Metastases in the Liver or Brain.	J Thorac Oncol. 2021 Oct 6;S1556-0864(21)03217-2. doi:10.1016/j.jtho.2021.09.014. Online	Original Article
235	Kurata T, Nakagawa K, Satouchi M, et al.	地域胸部疾患治療学	Phase 1 study of pembrolizumab plus chemotherapy as first-line treatment in Japanese patients with advanced NSCLC.	Cancer Treat Res Commun. 2021;29:100458. doi: 10.1016/j.ctarc.2021.100458. Epub 2021	Original Article
236	Socinski MA, Nishio M, Jotte RM, et al.	地域胸部疾患治療学	IMpower150 Overall Survival Analyses for Atezolizumab Plus Bevacizumab and Chemotherapy in First-Line Metastatic Nonsquamous NSCLC.	J Thorac Oncol. 2021;16(11):1909-1924.	Original Article

237	Ninomiya T, Nogami N, Kozuki T, et al.	地域胸部疾患治療学	Survival of chemo-naïve patients with EGFR mutation-positive advanced non-small cell lung cancer after treatment with afatinib and bevacizumab: updates from the Okayama Lung Cancer Study Group Trial 1404.	Jpn J Clin Oncol. 2021;51(8):1269-1276.	Original Article
238	Horinouchi H, Nogami N, Saka H, et al.	地域胸部疾患治療学	Pembrolizumab plus pemetrexed-platinum for metastatic nonsquamous non-small-cell lung cancer: KEYNOTE-189 Japan Study.	Cancer Sci. 2021;112(8):3255-3265.	Original Article
239	Yoh K, Seto T, Satouchi M, et al.	地域胸部疾患治療学	Final survival results for the LURET phase II study of vandetanib in previously treated patients with RET-rearranged advanced non-small cell lung cancer.	Lung Cancer. 2021;155:40-45.	Original Article
240	Tamai Y, Ohto H, Yasuda H, et al.	輸血・細胞治療部	Allo-anti-M: detection peaks around 2 years of age, but may be attenuated by red blood cell transfusion.	Transfusion. 61(9): 2718-2726	Original Article
241	Kitazawa R, Haraguchi R, Kohara Y, et al.	病理部	RANK-NFATc1 Signaling Forms Positive Feedback Loop on Rank Gene Expression via Functional NFATc1 Responsive Element in Rank Gene Promoter	Biochem Biophys Res Commun 572:86-91	Original Article
242	Kameyama A, Ye J, Shimomura A, et al.	病理部	Reproducibility and Prognostic Significance of Area of Residual Tumor (ART) in Post-neoadjuvant Resections of Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	Pancreatology 8:1506-1515	Original Article
243	Inoue A, Ohnishi T, Kohno S, et al.	病理部	Met-PET uptake index for total tumor resection: identification of 11C-methionine uptake index as a goal for total tumor resection including infiltrating tumor cells in glioblastoma	Neurosurg Rev. 44(1):587-597.	Original Article
244	Fujii T, Wada M, Hasebe S, et al.	緩和ケアセンター	Treatment and prognosis of patients with both cancer and impaired decision. ~patient with both cancer and dementia making as a symptom of dementia~	Geriatr Gerontol Int. 21:1105-1110	Original Article
245	Nishiyama K, Maekawa M, Nakagita T, et al.	乳腺センター	CNKSRI serves as a scaffold to activate an EGFR phosphatase via exclusive interaction with RhoB-GTP.	Life Sci Alliance 2021;4(9):e202101095	Original Article
246	Junichi Shimamura, Tomohiro Nishinaka, Toshhide	循環器病センター	Assessment of ocular blood flow in continuous-flow ventricular assist device by laser speckle flowgraphy.	J Artif Organs. 2021 Dec;24(4) 419-424. doi: 10.1007/s10047-021-01265-5. Epub 2021 Apr 6	Original Article
247	Ginjiro Kato, Hidemichi Mitome, Saki Shigematsu, et al.	医療薬学講座・薬剤部	Degradation and inactivation efficacy of ozone water for antineoplastic drugs in hospital settings	Journal of Oncology Pharmacy Practice. 2021 Oct 28. doi: 10.1177/10781552211042525	Original Article
248	Mami Uchida, Soichiro Ushio, Takahiro Nimura, et al.	医療薬学講座・薬剤部	Renin-angiotensin-aldosterone system inhibitors prevent the onset of oxaliplatin-induced peripheral neuropathy: A retrospective multicenter study and in vitro evaluation	Biological and Pharmaceutical Bulletin. 2022 Feb 1; 45(2): 226-234. doi: 10.1248/bpb.b21-00852	Original Article
249	Nohara, Yuka Utsunomiya, et al.	医療薬学講座・薬剤部	Application of Quantitative NMR Spectroscopy to the Quality Evaluation of Diclofenac Gargles as Hospital Preparations	Chemical and Pharmaceutical Bulletin. 2021; 69(8): 721-726. doi: 10.1248/cpb.c21-00079	Original Article
250	Hiroshi Kimura, Akihiro Tanaka, Shinichi Watanabe, et al.	医療薬学講座・薬剤部	Impact of urinary albumin excretion on the onset of adverse reactions to vancomycin hydrochloride	International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics. 2021 Jun; 59(6): 428-432. doi: 10.5414/CP203872	Original Article
251	Iori Sakakibara, Yuta Yanagihara, Koichi Himori, et al.	学術支援センター動物実験部門	Myofiber androgen receptor increases muscle strength mediated by a skeletal muscle splicing variant of Mylk4	iScience 13;24(4):102303. 2021. doi: 10.1016/j.isci.2021.102303	Original Article
252	Johnson J, Harman VM, Franco C, et al.	学術支援センター動物実験部門	Construction of à la carte QconCAT protein standards for multiplexed quantification of user-specified target proteins	BMC Biol. Sep 8;19(1):195. doi: 10.1186/s12915-021-01135-9.	Original Article
253	Endo Y, Takemori N, Nagay SK, et al.	学術支援センター動物実験部門	De novo reconstitution of chromatin using wheat germ cell-free protein synthesis	FEBS Open Bio. Jun;11(6):1552-1564. doi: 10.1002/2211-5463.13178. Epub 2021 May 16.	Original Article
254	Ishizaki J, Takemori A, Horie K, et al.	学術支援センター動物実験部門	Usefulness of tissue inhibitor of metalloproteinase 1 as a predictor of sustained remission in patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis.	Arthritis Res Ther. Mar 20;23(1):91. doi: 10.1186/s13075-021-02471-5.	Original Article

小計18件

計254件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 研究者等の責務等、病院長の責務等、倫理審査委員会、研究の適正な実施等、 研究の信頼性確保、重篤な有害事象への対応に関する手順、個人情報等、 研究実施に関する窓口	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理の対象、利益相反委員会、利益相反相談室、自己申告書の提出等の手続き	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 【新しい臨床研究倫理指針「人を対象とする生命医学・医学系研究に関する倫理指針」について】	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

第一内科 【血液内科】 【膠原病・リウマチ内科】 【感染症内科】

第一内科の専門領域は、血液、膠原病・リウマチ、感染症である。カンファレンスやセミナーを頻回に開催し、内科学会総合内科専門医、血液学会専門医、リウマチ学会専門医、感染症学会専門医を取得できるように、研修・指導を行っている。また、最近社会的ニーズが非常に高い臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の育成にも努力している。

第二内科 【循環器内科】 【呼吸器内科】 【腎臓内科】

当科に所属する日本内科学会総合内科専門医、日本循環学会専門医、日本呼吸器学会専門医、日本腎臓専門医、日本老年病専門医、日本臨床遺伝専門医、日本アレルギー学会専門医、日本不整脈学会専門医、日本高血圧学会専門医が血管機能解析、腎生検、血液浄化療法、肺癌化学療法、経気管支鏡的肺生検・吸引針生検、冠動脈形成術、心臓再同期療法、心筋焼灼療法等の高度医療を指導し、専門医の育成を行っている。

第三内科 【消化器内科】 【肝臓内科】 【内分泌代謝内科】

この領域は、第三内科が研修を担当する。消化器病として消化管・肝・胆・膵領域、甲状腺・副腎皮質などの内分泌領域、糖尿病をはじめとする糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝、金属代謝などの代謝領域、および栄養学の研修を指導した。研修では各々の領域の患者に対して先端的な診療、検査に触れるとともに、カンファレンスを通して理解を深め、目標を持ち自律的意欲的に研修、習得する医師の養成を目指している。当科のスタッフは日本内科学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本肝臓学会指導医、日本超音波学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本糖尿病学会指導医、日本内分泌学会指導医、日本アレルギー学会指導医、日本病態栄養学会専門医、NST稼働施設責任者等の各種指導資格を有しており、各領域の専門研修による専門医の育成とともに、内科を幅広く柔軟に診療できる内科医の育成を目指して研修・指導を行っている。

脳神経内科 【老年・神経内科】

神経内科、老年病、脳卒中、認知症などの専門医が、神経疾患、脳卒中や認知症の診療を教育した。入院診療では、免疫性神経疾患や変性疾患などを主体として、神経学的診察、末梢神経・中枢神経の電気生理検査、針筋電図や超音波検査(頸部血管、経頭蓋、経食道)などの専門手技の研修を行った。また、認知症診療では、愛媛県認知症疾患医療センターやもの忘れ外来診療を中心に、薬物治療や介護保険の利用法、その他の社会支援制度利用や生活指導の方法などの教育を行っている。

糖尿病内科・臨床検査医学 【糖尿病内科】

糖尿病専門医・指導医、内科専門医・指導医による専門的かつ総合的な研修を実施している。具体的には、1型糖尿病の診断・管理、急性代謝異常の診断・管理、2型糖尿病の診断・管理、その他特定の型(2次性)糖尿病の診断・管理、糖尿病合併妊娠及び妊娠糖尿病の診断・管理、周術期の血糖管理、持続皮下インスリン注入療法(CSII)を用いた血糖管理、持続血糖測定(CGM)を用いた血糖管理、ならびに糖尿病合併症の診断・治療・管理・予防教育を行っている。

臨床薬理神経内科 【薬物療法・神経内科】

脳神経疾患の診断・治療・教育研修とともに、特に難治性神経疾患の治療薬の研究・開発・研修を行っている。また、臨床研究に必要な手法の研究開発と基盤整備、および法務上必要な研修、指導を行っている。研修後に総合内科専門医、神経内科専門医、認知症専門医、頭痛専門医、臨床薬理専門医を取得している。

【精神科】

大学病院及び関連病院にて研修を行っている。後期研修以降は、それぞれのサブスペシャリティを決定し、その分野で研鑽をつみ、精神科医としての技能や知識を習得する。また、下記の項目にも重点をおく。

1. 児童思春期、青年期、老年期のそれぞれの年代の症例、また器質性、機能性、反応性の各精神障害の症例すべての臨床経験を獲得するよう主治医としてかかわる。
2. 臨床研究として、学会発表を行う。
3. 国内・国際学会、教室内外の勉強会に参加する。
4. クロザピン投与、修正型電気けいれん療法、光トポグラフィーなど極めて専門性の高い検査・治療に携わる。

また、臨床経験5年後には、精神保健指定医を取得し、日本精神神経学会専門医の獲得ができるよう環境を整えている。

小児科 【小児科】

後期研修1年目より専門医の取得を目指し小児の各分野の高度医療を実践する。特に新生児の管理・治療、小児がんの造血細胞移植などの高度医療、循環器疾患のインターベンション治療を含めた高度医療、難治性神経疾患の治療、遺伝性疾患の遺伝カウンセリングなどの他、感染症、内分泌・代謝、アレルギー、腎、膠原病などの幅広い小児科の分野の研修を行っている。また研修期間中は予防接種、健診などの予防医療についても研修を行っている。

消化器腫瘍外科 【消化器腫瘍外科】

消化器（主に消化管）癌に対する外科的治療（開腹、内視鏡、ロボット支援手術）を系統的に学び、更に化学療法、放射線治療などの集学的治療による治療戦略を学ぶことができる臨床研修を行う。外科専門医のみならず内視鏡外科技術認定医を目指した高度な手術技術を指導する。ドライラボ、アニマルラボ、シミュレータ、カダバーによる習熟度に応じた手術指導も定期的を開催し、スキルアップを図る体制を用意している。

肝胆膵・乳腺移植外科 【肝臓外科】 【胆のう外科】 【膵臓外科】 【乳腺外科】 【移植外科】

肝臓、胆のう、膵臓疾患について、画像診断から治療方針の決定、外科治療など消化器外科専門医並びに消化器病専門医及び肝胆膵外科高度専門医を取得できるように、研修、指導を行っている。

心臓血管・呼吸器外科 【心臓血管外科】 【呼吸器外科】

1. 心臓血管外科においては、外科専門医、心臓血管外科専門医の資格の取得に必要な、経験、技術、知識、人間性を習得することを目標として、将来、専門医として社会貢献できる医師を目指す研修を行っている。
2. 呼吸器外科においては、外科専門医、呼吸器外科専門医の取得が可能。呼吸器外科疾患の適切な診断能力と治療方針はもちろん、呼吸器センターの一員として、あらゆる状況において応用可能な能力を身につける研修を行っている。

脳神経外科 【脳神経外科】

日本脳神経外科学会研修プログラムに則って、研修指導医の下で、脳神経外科の診断と治療に必要な知識と基本的技術を習得させるため、基本診療科の一つとして、愛媛大学と関連連携施設で研修をすすめる。当施設では脳卒中センター、脊椎センター、手術手技研修センターにおいて、脳卒中の急性期治療（脳血管内治療を含む）、脊椎・脊髄疾患の診療、手術に必要な微小解剖のトレーニングを中心としている。脳腫瘍・脳血管疾患、脊椎・脊髄の主要な疾患の他に、小児脳神経外科、機能神経外科、感染症などの田崎な疾患群全てを研修可能である。それによって、脳神経外科専門医取得にあたっての、十分な臨床経験を積める環境が整っている。

整形外科 【整形外科】

運動器疾患全般に関して、科学的知識と高い社会的倫理観を備えた医師を養成すべく、進歩する医学知識と最新の医療技術を研鑽させた。特に以下の3点に重点を置いた教育を行っている。

- 1, 高齢者のQOLを支える医療
- 2, エビデンスに基づく幅広い治療方針
- 3, 水準の高い治療で早期の社会復帰をサポート

さらに、整形外科専門医習得に必要な臨床症例の経験と論文作成・学術発表の指導も行っている。

皮膚科 【皮膚科】 【形成外科】

皮膚科学会、形成外科学会の研修施設認定を受けている。皮膚科では湿疹や感染症などの日常的疾患から、皮膚がん、自己免疫性疾患、重症薬疹、先天性疾患などの希少疾患までを対象とした総括的かつ専門性の高い研修を行っている。必要研修期間終了時には専門医の取得が可能である。形成外科では小児の先天性疾患からマイクロサージャリーによる再建手術まで、広範囲かつ高度な専門的な技術を習得できる研修を行っている。いずれも必要研修期間終了時には専門医の取得が可能であり、その後さらに皮膚腫瘍外科専門医、レーザー専門医、頭蓋顎顔面外科専門医などの取得も可能である。

泌尿器科 【泌尿器科】

副腎、尿路、男性生殖器の診断、治療に関する研修を行う。効率的に泌尿器科医としての研修を受け、10年間の研修を修了すれば、泌尿器科医として独り立ちできるように県下基幹病院と協力して独自の研修システムを整備している。その中で当科では、腎や副腎、膀胱などの鏡視下手術、ロボットを用いた前立腺手術、各種開腹手術、尿路結石や膀胱癌に対しての内視鏡的手術、婦人科泌尿器科手術、慢性腎不全に導入から腎移植までの研修を行っている。また、尿路上皮癌や前立腺癌に対する抗癌化学療法や放射線治療なども、全国的にもリーダー的存在で、専門性の高い研修を行っている。

眼科 【眼科】

日本眼科学会の研修プログラム基幹研修施設として眼科指導医のもとで、眼科学の進歩に応じて、眼科医の知識と医療技術を高め、すぐれた眼科医を養成するための指導を行っている。研修プログラムでは、外来患者および年間1000例以上の手術症例を中心に、眼科一般の診断と治療に必要な知識と基本的技術を取得させる内容となっている。また、高度な医療技術、特に難易度の高い手術のための知識やその実行には、頭頸部のより高度な解剖学的知識が要求されるため、御遺体を用いて以下の涙道手術手技研修を行っている。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 【耳鼻咽喉科】

日本耳鼻咽喉科学会の研修施設認定を受けており、耳鼻咽喉科学ならびにその関連領域における医学の進歩に応じて、耳鼻咽喉科医の知識と医療技術を高め、すぐれた耳鼻咽喉科医の養成を図った。研修プログラムには、耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の各領域における十分な専門性を有する指導医をおき、年間500例以上の手術症例を中心に研修を行った。人工内耳などの最先端耳鼻咽喉科医療の指導体制も充実している。

放射線科 【放射線診断分野】 【放射線治療分野】

1. 診断専門医は、画像診断（X線、CT、MRI、超音波等）、核医学、インターベンションラジオロジー（IVR）の専門的知識と診療技術を習得し、この知識と技術に基づいた検査の選択・指示・実施・管理等が出来るようにする。

2. 放射線治療専門医は、悪性腫瘍および一部の良性疾患に関して、放射線治療の効果、照射術式とその計画、有害事象、治療前中後の管理などについての専門知識と診療技術を駆使した適正な放射線治療が行えるようにする。

産婦人科 【周産期医学分野】 【婦人科腫瘍分野】 【女性医学分野】 【生殖医療分野】

日本産科婦人科学会専門医指導医のもと、上記4領域において患者を担当する医療者チームの一員として診断・治療に携わる。4領域に関する研修ガイドラインに基づいて臨床に必要な基本知識・産婦人科疾患に対する検査・診断・治療を以下の項目を目標に修得する。

1. 周産期医学分野：母体合併症妊娠における母児の問題点および管理法、超音波検査を用いた胎児の推定体重や血流測定を含めた胎児の元気度の評価や構造異常の評価に関して修得する。分娩管理については、分娩進行の評価につき研修し、分娩介助および帝王切開の適応・手技についても修得する。

2. 婦人科腫瘍分野：婦人科疾患における超音波検査・CT検査・MRIなどの画像診断を用いた診断学の修得を行う。内診による腫瘍の進展度の評価やコルポスコーピーによる子宮頸部病変の評価について研修する。開腹術・腹腔鏡下の婦人科手術手技を理解し、基本的手技および周術期管理の実際について修得する。

3. 女性医学分野：女性の内分泌疾患に対する診断・管理やホルモン補充療法、更年期障害に対するアプローチについて研修する。

4. 生殖医療分野：不妊症の検査・診断および生殖補助技術*以外の排卵誘発法やタイミング法などの基本的な治療について研修する。（*：生殖補助技術については、他施設において研修する。）

麻酔科 【麻酔科蘇生科】

臨床の現場において、手術における全身麻酔や区域麻酔、集中治療管理、痛みの治療の研修指導を行い、さらに下記の研修を通して、より高度な医療技術を身につけるよう指導する。

1. 高機能シミュレータを用いた全身麻酔手技の習得
2. 危機的状況を想定したシナリオトレーニング
3. 緩和ケア医療の研修

リハビリテーション部 【リハビリテーション科】

日本リハビリテーション医学会専門医の指導の下、以下の項目を目標とした教育プログラムを行っている。

1. 診断学：リハビリテーションを行う上で必要な、各種画像検査・電気生理学的検査・病理診断・超音波検査などを、評価・施行できる。運動障害や高次脳機能障害だけでなく、嚥下障害、心肺機能障害、排泄障害の評価といった、関連領域も評価ができる。

2. 治療：全身状態の管理ができる。障害評価に基づく治療計画が立てられる。各種リハビリテーション（理学療法・作業療法など）に加え、義肢装具の処方・ブロック療法・薬物治療・生活指導などができる。

救急科 【救急科】

専攻医には、以下の3つの学習方法で専門研修を行う。

1. 臨床現場での学習：経験豊富な指導医が中心となり救急科専門医や他領域の専門医とも協働して、専攻医に広く臨床現場での学習を提供する。

- 1) 救急診療や手術での実地修練 (on-the-job training)
- 2) 診療科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス
- 3) 抄読会・勉強会への参加
- 4) 臨床現場でのシミュレーションシステムを利用した、知識・技能の習得

2. 臨床現場を離れた学習：国内外の標準的治療および先進的・研究的治療を学習するために、救急医学に関連する学術集会、セミナー、講演会および JATEC、JPTEC、ICLS コースなどの off-the-job training course に積極的に参加する。救命処置法の習得のみならず、インストラクターコースへ参加できるように配慮し、その指導法を学ぶ。また、研修施設もしくは日本救急医学会等が開催する認定された法制・倫理・安全に関する講習にそれぞれ少なくとも1回は参加する。

3. 自己学習 専門研修期間中の疾患や病態の経験値の不足を補うために、日本救急医学会等

が準備する「救急診療指針」、e-Learning などを活用した学習を病院内や自宅で利用できる機会を提供する。

研修プログラムの実際と特徴としては、本研修プログラムは、各専攻医の希望を考慮し、個々の基本モジュールの内容を吟味した上で、基幹施設・連携施設のいずれの施設からの開始に対しても対応できるように設計された研修コースである。本研修プログラムによる救急科専門医取得後には、集中治療、外傷、熱傷などの救急科関連領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動を選択することが可能。プログラム期間中に当大学病院等で研修を行いながら愛媛大学大学院医学系研究科への社会人大学院進学を認めている。また本研修プログラム管理委員会は、基幹研修施設である愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センターと協力し、大学卒業後 2 年以内の初期研修医の希望に応じて、将来、救急科を目指すための救急医療に重点を置いた初期研修プログラム作成にもかかわっている。

歯科口腔外科・矯正歯科 【歯科口腔外科】

外来における初診患者の問診、初診診察、診断、治療の口腔外科疾患一連の流れ、および手術手技難易度分類の中等度までにおける外来外科処置の執刀および術後のfollowを行っている。また、病棟においては入院から退院までの口腔癌、顎変形症、炎症、外傷、嚢胞性疾患患者等の患者管理および中等度相当までの執刀を指導医の元、経験する。臨床外に関しては、口腔外科関連論文の抄読会を担当し、学術的理解にも励んでいる。

病理診断科・病理部 【病理科】

病理専門医は、病理学総論と諸臓器の疾患に関する病理学的知見に基づいて、医療の根幹である病理診断（病理解剖、手術・生検標本診断、細胞診）を行い、臨床医との相互討論を通じて医療の質を担保し、高度先進医療、地域医療の推進に寄与する。本院では、「患者に学び患者に還元する医療」の姿勢で、医療倫理、医療安全を実施し、社会的ニーズに応じた病理専門医を育成する。病理専門研修では、日本病理学会の「専門研修手帳」に記された基準を満たすよう、知識・技能・態度の指導を行う。病理解剖については、視聴覚教材とマンツーマン指導による手技の修得・肉眼所見と病理組織標本検鏡・診断書作成、全例CPCを行う。手術・生検標本の診断と細胞診断は、業務マニュアルによる切り出し手技や報告書作成の標準化と、指導医によるマンツーマン指導・全例検閲を行う。臨床科との症例検討会での発表討論を日常的に行い、愛媛県病理研究会、中四国支部会、日本病理学会総会での症例報告を指導する。基礎の病理学講座との連携のもとに、分子病理学的研究手法の研鑽を奨励する。病理診断学の修練のみならず、専門医取得後のキャリア形成に留意し、後進の指導にあたる人材育成を目指す。

睡眠医療センター 【睡眠医療】

睡眠障害の診断・治療について、専門的研修を実施する。日本睡眠学会認定医療機関であり、年間200例以上の終夜睡眠ポリグラフィ実施を基盤とした睡眠障害の生理学的診断法、ならびに睡眠覚醒メカニズムに即した治療手法について、学会認定医が研修を担当する。国際学会での発表、論文指導も行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	37人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
竹中 克斗	第一内科	教授	31年	
山之内 純	輸血・細胞治療部	准教授	27年	血液
薬師神 芳洋	腫瘍センター	教授	34年	腫瘍内科
池田 俊太郎	循環器内科	教授	30年	
山口 修	呼吸器内科	教授	27年	循環器・呼吸器・高血 圧内科学
日浅 陽一	第三内科	教授	32年	消化器・内分泌・代謝 内科学
大八木 保政	脳神経内科	教授	37年	神経内科・老年病
大澤 春彦	糖尿病内科・臨床検査医学	教授	34年	
永井 将弘	臨床薬理神経内科	特任教授	34年	
上野 修一	精神科	教授	37年	
江口 真理子	小児科	教授	31年	
檜垣 高史	地域小児・周産期	教授	34年	
田内 久道	感染制御部	准教授	32年	
渡部 祐司	消化管腫瘍外科	教授	39年	
高田 泰次	肝臓・胆のう・膵臓・移植 外科	教授	39年	消化器外科、肝胆膵・ 移植外科
泉谷 裕則	心臓血管・呼吸器外科	教授	34年	心臓血管外科
佐野 由文	心臓血管・呼吸器外科	准教授	37年	呼吸器外科
國枝 武治	脳神経外科	教授	29年	脳神経外科
高尾 正樹	整形外科	教授	24年	
藤澤 康弘	皮膚科・形成外科	教授	24年	
雑賀 隆史	泌尿器科	教授	35年	
白石 敦	眼科	教授	36年	
羽藤 直人	耳鼻咽喉科	教授	33年	耳鼻咽喉科
城戸 輝仁	放射線科	教授	23年	放射線診断分野
倉田 聖	放射線科	准教授	26年	放射線治療分野
杉山 隆	産婦人科	教授	35年	周産期・女性医学分野
松原 圭一	産婦人科	教授	35年	周産期医学分野
藤岡 徹	産婦人科	准教授	31年	婦人科腫瘍分野
萬家 俊博	麻酔科蘇生科	教授	38年	
佐藤 格夫	救急科	教授	27年	
中城 公一	歯科口腔外科・矯正歯科	准教授	29年	
北澤 理子	病理診断科・病理部	特任教授	27年	
岡 靖哲	睡眠医療センター	准教授	29年	睡眠医療

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容： 新規採用者研修
- ・研修の期間・実施回数： 2021年4月5日～5月14日（DVD回覧）
- ・研修の参加人数： 153名（うち看護職：80名）

- ・研修の主な内容： 新人看護職員研修（薬剤の基礎知識）
- ・研修の期間・実施回数： 2021年4月8日
- ・研修の参加人数： 80名

- ・研修の主な内容： 「新任教職員研修」
- ・研修の期間・実施回数： 2021年5月31日 1回
- ・研修の参加人数： 2名

- ・研修の主な内容： 「新人診療放射線技師研修会」
- ・研修の期間・実施回数： 2021年6月10日 1回
- ・研修の参加人数： 3名

- ・研修の主な内容： 「国公立大学病院診療放射線技術者研修」
- ・研修の期間・実施回数： 2021年10月4日～7日 1回
- ・研修の参加人数： 1名

- ・研修の主な内容： 「核酸増幅検査（PCR等）基礎学科研修」

・研修の期間・実施回数： 2021年11月21日 1回

・研修の参加人数： 1人

・研修の主な内容：「IS015189内部監査者養成セミナー」

・研修の期間・実施回数： 2021年11月27日 1回

・研修の参加人数： 16人

・研修の主な内容： 病棟看護師研修（経静脈栄養について）

・研修の期間・実施回数： 2021年12月2日

・研修の参加人数： 21名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容： 2021年度 医療安全に関する講演会「安全な医薬品の取り扱い」

・研修の期間・実施回数： 2021年4月26日～5月31日（e-learning）

・研修の参加人数： 1258名

・研修の主な内容： 「業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修」

・研修の期間・実施回数： 2021年9月～2027年3月

・研修の参加人数： 7名

・研修の主な内容：「ルテチウムオキソドトロチド注射液を用いた核医学治療の安全取扱講習会」

・研修の期間・実施回数： 2021年9月1日～9月19日

・研修の参加人数： 3人

・研修の主な内容： 「第33回放射性医薬品取り扱いガイドライン講習会」

・研修の期間・実施回数： 2022年3月14日 1回

・研修の参加人数： 6人

・研修の主な内容： 2021年度 医療安全セミナー「インスリン製剤の安全使用」

・研修の期間・実施回数： 2022年3月31日～4月30日（e-learning）

・研修の参加人数： 741名

・研修の主な内容： 第41回創薬・育薬セミナー

「個人情報保護法改正に伴う研究倫理指針の改正について」

・研修の期間・実施回数： 2022年8月23日

・研修の参加人数： 121名（うち外部15名）

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容： 連携充実加算-特定薬剤管理指導加算2の勉強会（第3回目）

・研修の期間・実施回数： 2022年2月25日

・研修の参加人数： 146名

・研修の主な内容： 令和3年度愛媛糖尿病療養指導士認定試験受験・更新資格取得のための研修会－内服薬・注射薬－

・研修の期間・実施回数： 2022年2月11日－2022年3月11日（Web）

・研修の参加人数： 177名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長 杉山 隆	
管理担当者氏名	医療情報部長	木村 映善
	看護部長	崎田 智美
	薬剤部長	田中 守
	放射線部長	城戸 輝仁
	ME機器センター長	泉谷 裕則
	総務課長	上甲 功治
	医事課長	高木 剛造
	人事労務課長	米田 健
	研究協力課	中川 玲
	医療サービス課長	松尾 一恵

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	手術部
		看護記録	病棟
		検査所見記録	医療情報部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医療情報部
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部
			カルテは医療情報部で一括管理(主に電子カルテ、古いものは一部紙カルテ) 1患者1カルテ 病院外への持ち出しは例外を除き原則禁止。禁止にも関わらず持ち出したい場合は、申請し、審査を受けることとなっている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事労務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究協力課
		高度の医療の研修の実績	人事労務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療サービス課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療サービス課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療サービス課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療サービス課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療サービス課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療サービス課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療サービス課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療サービス課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME機器センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部 総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部 総務課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部 総務課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部 総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療サービス課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療サービス課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部 総合診療サポートセンター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療サービス課 医事課 人事労務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	運営部長 仙波 文彦	
閲覧担当者氏名	総務課長 上甲 功治	
閲覧の求めに応じる場所	総務課	
閲覧の手続の概要 閲覧請求者は、国立大学法人愛媛大学情報公開取扱規程に基づき「法人文書開示請求」を提出し、承認の決定後、「開示の実施方法の申出書」に基づき閲覧する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊟・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者中心の医療の実践 2. チーム医療の実践 3. 医療安全に関する組織的取組み 4. インシデントの報告と情報の共有 5. 機能する医療事故防止対策 6. 適切な医療事故への対応 7. 患者相談の実施，指針等の閲覧 8. 医療安全管理教育・研修，啓発 9. その他の医療安全推進への対応 10. 医療安全管理マニュアルの作成・更新 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（㊟・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に係る安全管理のための指針の策定及び変更に関する事 2. 医療事故防止対策の検討及び研究に関する事 3. インシデントの分析及び再発防止策の検討に関する事 4. 医療事故調査制度に対応する死亡原因判定に関する事 5. 医療事故防止のための啓発，教育及び研修に関する事 6. 医療事故に対する対応策の策定に関する事 7. 患者及び家族等の被害者への対応に関する事 8. 関係公的機関への報告に関する事 9. 報道に関する事 10. その他，医療安全管理及び医療事故対策に関する事 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> 第1回：当院の医療安全管理体制について、安全な医薬品の取り扱い（令和3年4月26日～e-learning） 第2回：中等度鎮静の患者管理（令和3年7月28日開催） 第3回：医薬品に依存する人たちの理解と支援（令和4年1月6日開催） 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（㊟・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全ラウンド：年2回計画的に実施 2. インシデント報告後の現場ラウンド，ヒアリング（随時） 3. 医療安全シンポジウム：年1回医療現場からの公募方式で実施 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会その他院内の組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本指針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本指針 7. その他院内感染対策の推進のための基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染の調査，予防対策に関すること 2. 院内感染防止の実施，監視及び指導に関する活動 3. 院内感染発生時の措置に関すること 4. 職員の院内感染の教育に関すること 5. その他院内感染防止に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> 第1回 手指衛生・ASTについて (令和3年8月21日～令和3年9月21日 e-learning) 第2回 新型コロナウイルス感染症～愛媛大学は何をしてきたのか～ (令和3年10月18日～令和3年11月30日 e-learning) 第3回 新型コロナウイルス感染症の検査と治療薬について (令和4年2月16日～令和4年3月9日 e-learning) 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>ICT会議において事例を検討し、問題点の分析を実施している。また、その結果を含めて院内感染対策委員会へ報告し、重要な事例については病院運営委員会及び病院連絡協議会に報告している。</p> <p>研修会においては、参加者アンケートから研修会の要望を調査し、次年度の研修計画の参考としている。</p> <p>週に1回院内をラウンドし、感染対策について確認を行っている。</p> 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年1回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容： 令和3年度第1回医療安全に関する講演会 「麻薬・向精神薬・覚醒剤原料の管理」「処方入力と医薬品取り扱い時の注意点」 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 手順書の作成 (☑・無) 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書として「医薬品安全管理手順書」を作成（平成19年7月1日策定、令和3年7月15日改訂）。 医薬品安全手順書に基づく業務の各部署実施状況の確認は、医療安全管理部と薬剤部が協働して行う年2回の医療安全ラウンドにおいて行い、業務改善が必要な事項について指導し、改善を図っている。医療安全ラウンドでの各部署における確認結果は、医療安全管理部会議、医療安全管理委員会、リスクマネージャー会議で報告を行い、院内での情報共有を行っている。さらに、薬剤部で毎月開催している医薬品安全管理カンファレンスにおいても医療安全報告を行い、薬剤師間での情報共有を図っている。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無) 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 若年性皮膚筋炎に対するステロイド減量効果および寛解維持を目的としたメトトレキサート錠2mgの使用 大腸腫瘍に対して色素拡大観察を行うためのピオクタニンの使用 妊婦へのカルベジロール錠の使用 その他の改善のための方策の主な内容： ●調剤時以外での禁忌該当薬剤の確認体制 薬剤部薬品情報管理室において、処方薬剤に対して禁忌病名が登録されている入院患者情報を抽出している。抽出された情報に基づき病棟担当薬剤師が担当医に禁忌該当薬剤に対する疑義照会を行い、当該薬剤処方継続の可否の確認、必要に応じて処方提案を行っている。また、疑義照会の結果、既に終了している病名であった場合は病名整理を依頼し、適切に医薬品が使用できるよう努めている。また、これらの病名に関する禁忌の情報には毎月医事課にも報告しており、医事課からも病名整理を依頼している。 ●医療安全管理委員会への医薬品安全管理報告体制 医薬品安全管理体制を担っている部門（薬剤部）における医薬品の安全使用に係る業務を医療安全管理委員会へ報告している。内容は、院内副作用報告件数および医薬品安全性情報報告件数、院内院外疑義照会件数、プレアボイド報告件数、禁忌該当薬剤の確認数等である。医療安全管理委員会は医薬品安全管理体制の部門を監査し、必要に応じて意見することとしている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年43回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① 新規医療機器導入時 ② 使用方法、保守点検に関して ③ 有用性や安全性に関して ④ 不具合等発生時の対応に関して ⑤ 学会、研修会への出席 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (☑・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① 定期点検と日常点検および不良対応点検 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：未承認 1件、適応外使用 4件 <ol style="list-style-type: none"> ① 大動脈肺動脈窓閉鎖術後の残存短絡を閉鎖するために閉鎖栓を使用 (Figulla Flex II ASD 閉鎖セット) (適応外使用) ② 肺癌の大動脈浸潤の手術を安全に行うために事前に大動脈ステントを留置 (ゴアCTAG、Relay plus、Valiant Navion) (適応外使用) ③ 重症涙小管閉塞で涙小管再建が不能な症例に対して、結膜と涙嚢及び鼻腔にステント留置目的でJonesTubeを使用 (未承認) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① 医療機器の使用等についてインシデントが発生した場合は、インシデント検討会議、リスクマネジャー会議にて事例を分析し、改善策等を立案している。また、立案した改善策については医療安全管理委員会にて報告し承認を得た後、リスクマネジャー会議やME機器センター発信のインフォメーションにおいて院内に周知している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	㊟・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>愛媛大学医学部附属病院副病院長に関する規定 第3条3 病院長は、医療安全を担当する副病院長を医療法施行規則第9条の20の2第1項第1号に規定する医療安全管理責任者に指名し、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括させる。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	㊟ (3名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>薬品情報管理室において医薬品に関する情報（イエローレター、ブルーレター、回収・出荷停止、適正使用のお願い、医薬品・医療機器等安全性情報、医薬品安全対策情報、PMDA 医療安全情報、日本医療機能評価機構医療安全情報、添付文書改訂、PMDA からの公知申請情報・適応外情報）を一元的に収集し、院内メーリングリストや院内イントラネット、電子カルテ掲示板を利用し周知している。また、DI ニュース、プレアボイドニュース、薬事委員会において決定した新規採用・削除薬一覧表（New Face）を作成し、メーリングリストおよび紙媒体等を用いて院内へ周知している。</p> <p>特に重要な情報（イエローレター、ブルーレター、その他薬品情報管理室が重要と判断した内容）については、上記の周知に加えてデータウェアハウスを用いて抽出した該当薬品使用中の全患者を対象とした適正使用のモニタリング、処方医に対する電子カルテでの個別メールによる情報提供も行っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>院内において未承認、適応外あるいは禁忌薬（以後、未承認新規医薬品等）を新たに使用する場合には、未承認新規医薬品等評価部に必要書類を提出する。書類とは①未承認新規医薬品等 申請・報告書式、②患者向け説明文書、③患者同意書、④患者同意撤回書、⑤未承認新規医薬品等を使用する根拠となるエビデンス（文献等）、⑥医薬品を用いる場合は当該医薬品の添付文書 であり、未承認新規医薬品等評価部は申請内容に関して未承認新規医薬品等評価委員会に意見を求めた上で使用の可否を決定する。なお、医学倫理委員会の審査が必要と判断された場合には、その審査の結果を以って使用可否の判断を行う。また、承認された未承認新規医薬品等に関しては未承認新規医薬品等評価部で実施報告書や適正使用モニタリング等の管理を行う。</p>	

また、薬剤部において薬剤師が調剤時に当該薬品が未承認新規医薬品等に該当すると認識した場合、担当医へ疑義照会を行い、妥当性の確認や処方提案を行っている。結果に関しては診療録へ記録し、必要に応じて医薬品安全管理責任者へ報告している。これらの未承認新規医薬品等に係る疑義照会情報は薬品情報管理室で収集し、院内の医療安全管理委員会へ報告する体制をとっている。

・担当者の指名の有無 () ・無

・担当者の所属・職種：

(所属：未承認新規医薬品等評価部，職種 薬剤師 (副薬剤部長))

(所属：薬剤部，職種 薬剤師 (薬品情報管理室室長))

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

・無

・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 () ・無)

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容
確認方法：各リスクマネジャーを通して確認

指導内容：説明内容，説明手順，説明方法，成立要件，説明同意書，診療録への記載，責任者の配置

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

中央病歴室での量的点検及び多職種による質的監査により記載内容の確認を行っている。質的監査の結果は、診療記録管理委員会で審議後、病院運営委員会報告及び監査対象診療科へのフィードバックを行っている。昨年度の監査結果による主な指導内容は IC 記載、同意書について、略語等の使用など。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

・無

・所属職員：専従 3 名、専任 3 名、兼任 22 名

うち医師：専従 1 名、専任 2 名、兼任 6 名

うち薬剤師：専従 1 名、専任 () 名、兼任 1 名

うち看護師：専従 1 名、専任 () 名、兼任 9 名

(注) 報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. 報告があったインシデントのモニタリング、分析及び影響レベルの判定に関すること
2. インシデント審議委員会及びインシデント調査委員会に関すること
3. インシデントごとの解決策及び再発防止策の企画・立案に関すること
4. 医療安全体制システム及びマニュアルの見直しに関すること
5. 医療安全管理委員会で決定した事項についての周知の確認及びそれに必要な指導に関すること
6. 安全管理に関する教育・研修等の実施に関すること
7. 医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成・保存等の運営に関すること
8. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導に関すること。
9. 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認及び必要な指導に関すること
10. 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び必要な指導に関すること
11. 他の委員会、患者相談窓口等他部門及びリスクマネージャー等との連絡調整に関すること
12. 医療事故防止等に係る情報提供に関すること
13. その他医療の質の向上及び安全管理に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（8件）、及び許可件数（8件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：

高難度新規医療技術を用いた医療の適正な提供を図る為に、審査を行い、適否等の決定を行う。

又、すべての症例について、提供された医療の安全性、適正性を定期的に評価する。有害事象発生時及び患者が死亡した場合は、当該診療科から報告を受け、適切な処置や対策を講ずる。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（51件）、及び許可件数（51件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：

未承認新規医薬品等を用いた医療の適正な提供を図るために、審査を行い、適否等の決定を行う。
また、全ての症例について、提供された医療の安全性、適正性を定期的に評価する。有害事象発生時及び患者が死亡した場合は、当該診療科から報告を受け、適切な処置や対策を講ずる。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 137 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 150 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

患者影響レベル 3b 以上のインシデントの分析及び再発防止策の検討。死亡事例検討会の結果報告確認

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：岡山大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：島根大学医学部附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面調査となり、島根大学医学部附属病院からの助言は特になかった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

総合診療サポートセンターが患者からの相談窓口となっている。個室の面談室9室、オープンな相談ブースを4ヶ所設置し、対応している。中でも、医療安全に係る相談については、総合診療サポートセンターのメディエーターが主に対応し、医療サービス課・医療安全管理部が連携できる体制をとっている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 新規採用者へのオリエンテーション
2. 医療安全に関する講演会（3回）
3. 医療安全セミナー（6回）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者が、公益財団法人日本医療機能評価機構主催の「2021年度特定機能病院管理者研修（初回・11時間）」を受講。

医療安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、公益財団法人日本医療機能評価機構主催の「2021年度特定機能病院管理者研修（継続・5時間）」を受講。

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2022年2月に、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価のうち、主たる機能種別「一般病院3」及び副機能種別「精神科病院」を受審し、2022年8月19日付けで認定を受けた。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

上記受審による審査結果報告書の改善要望事項の該当については、院内で共有するとともに、外部からも審査結果報告書の内容を確認出来るように、医学部附属病院ホームページのトップページに日本医療機関評価機構ホームページへのリンクを設置している。

・評価を踏まえ講じた措置

審査結果報告書により、評価判定結果が「B」であったセクションに関して、関係部署にて改善策を検討し、改善状況および計画等を「改善状況報告書」として作成し、取りまとめて院内で共有した。また、評価判定結果が「C」であったセクションに関しては、院内で改善策を継続的に実践し、これについて評価機構における確認審査を受審する予定である。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師免許を有している者 ・ 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 ・ 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 ・ 教育・研究・診療に必要な資質・能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) ・ 公表の方法 : 愛媛大学ホームページに掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無) ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		☑・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 運営方針、中期計画、予算及び決算その他病院の運営に関する重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 愛媛大学医学部内職員サイトに資料・議事要旨を掲載 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（☑・無） ・公表の方法：愛媛大学ホームページに掲載 ・外部有識者からの意見聴取の有無（☑・無） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
杉山 隆	○	医師	病院長／周産母子センター長
雑賀 隆史		医師	副病院長(総務・経営担当)／泌尿器科長
竹中 克斗		医師	副病院長(診療・教育担当)／第一内科長
萬家 俊博		医師	副病院長(医療安全・危機管理担当)／麻酔科蘇生科長 ／手術部長／痛みセンター長
日浅 陽一		医師	副病院長(地域連携・地域医療再生担当)／第三内科長 ／総合診療サポートセンター長
崎田 智美		看護師	副病院長(患者サービス担当)／看護部長
大澤 春彦		医師	副病院長(橋渡し研究推進担当)／糖尿病内科・臨床検査医学科長／検査部長／先端医療創生センター長
山口 修		医師	第二内科長
大八木 保政		医師	脳神経内科長
永井 将弘		医師	臨床薬理神経内科長／臨床研究支援センター長／臨床研究データセンター長／臨床研究COIマネジメント部長
川本 龍一		医師	総合診療科長
上野 修一		医師	精神科長／認知症疾患医療センター長
江口 真理子		医師	小児科長／臨床遺伝医療部長

渡部 祐司		医師	消化器腫瘍外科長／材料部長／低侵襲・がん治療センター長／高難度新規医療技術評価部長
高田 泰次		医師	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科長／臓器・組織移植センター長
泉谷 裕則		医師	心臓血管・呼吸器外科長／ME機器センター長
國枝 武治		医師	脳神経外科長
高尾 正樹		医師	整形外科長／リハビリテーション部長／人工関節センター長
藤澤 康弘		医師	皮膚科長
中岡 啓喜		医師	形成外科長
白石 敦		医師	眼科長／細胞プロセッシングセンター長
羽藤 直人		医師	耳鼻咽喉科長
城戸 輝仁		医師	放射線科長／放射線部長
藤岡 徹		医師	産婦人科長
内田 大亮		歯科医師	歯科口腔外科・矯正歯科長
佐藤 格夫		医師	救急科長／救急部長
山之内 純		医師	輸血・細胞治療部長
高崎 康史		医師	集中治療部長
北澤 理子		医師	病理診断科・病理部長
木村 映善		医師	医療情報部長
池田 宜央		医師	光学医療診療部長
菊川 忠彦		医師	透析治療部長
鈴木 純		医師	医療安全管理部長
渡邊 英昭		医師	脳卒中センター長
西村 隆		医師	循環器病センター長
利光 久美子		管理 栄養士	栄養部長
谷本 一史		医師	造血細胞移植センター長
伊賀瀬 道也		医師	抗加齢・予防医療センター長
田内 久道		医師	感染制御部長
薬師神 芳洋		医師	腫瘍センター長／緩和ケアセンター長

徳本 良雄		医師	肝疾患診療相談センター長
森野 忠夫		医師	脊椎センター長
宮川 正男		医師	PETセンター長
佐野 由文		医師	呼吸器センター長
打田 俊司		医師	小児総合医療センター長
原 祐子		医師	屈折矯正センター長
渡邊 英昭		医師	脳卒中センター長
亀井 義明		医師	乳腺センター長
西村 隆		医師	循環器病センター長
岡 靖哲		医師	睡眠医療センター長
伊賀 淳一		医師	認知症疾患医療センター長
本田 弘文		診療放射線 技師	放射線治療品質保証室長
堀内 史枝		医師	子どものこころセンター長
飛鷹 範明		薬剤師	未承認新規医薬品等評価部長
竹下 英次		医師	炎症性腸疾患センター長
檜垣 高史		医師	移行期・成人先天性心疾患センター長
田中 守		薬剤師	薬剤部長／臨床研究クオリティマネジメント部長
大元 謙二		診療放射線 技師	診療支援部長
熊木 天児		医師	総合臨床研修センター長
仙波 文彦		事務職員	医学部運営部長
山下 政克		教員	医学系研究科長(医学部長)
松浦 文三		医師	地域生活習慣病・内分泌講座 教授

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (・ 無)
- ・ 公表の方法 : 愛媛大学ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容 : 人事権限・予算執行権限
- ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割
【職名】
副病院長 (総務・経営担当/診療・教育担当/医療安全・危機管理担当/地域連携・地域医療再生担当/患者サービス担当/橋渡し研究推進担当)
病院長補佐 (災害担当/病院再開発担当/医療情報担当/感染症担当/チーム医療推進担当)
【役割】
病院長の職務を補佐し、病院長から指示された重要な事項を処理する。

【職名】 (副病院長のうち総務・経営担当)
【役割】 病院長が不在又は事故があるときは、その職務を代理する。

【職名】 (副病院長のうち医療安全・危機管理担当)
【役割】
医療安全管理責任者として医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
厚労省委託事業の特定機能病院管理者養成研修に4名参加し、国立大学附属病院長会議等企画の病院経営次世代リーダー養成塾に5名参加した等、各種研修の受講を促している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>次の事項について審議する。</p> <p>(1) 病院の医療安全に係る業務執行状況の監査に関すること。</p> <p>(2) 安全管理状況及び改善状況に関すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法：愛媛大学ホームページに掲載</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
菅 政治	愛媛県立中央病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
大熊 伸定	弁護士法人 松山中央弁護士事務所		法律に関する識見を有する者	無	1
河野 和博	愛媛県難病等患者団体連絡協議会／愛媛県腎臓病患者連絡協議会		医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
監査室を設置し、監事及び会計監査人と連携して監査を実施している。
- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)
- ・ 公表の方法 : 愛媛大学ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人法に基づき、役員会・経営協議会を設置し、病院の業務・管理運営及び経営に関する重要事項を審議・報告している。 ・ 会議体の実施状況（ 役員会：26回 経営協議会：5回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> ・ 無 ） （役員会：20回 経営協議会：4回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> ・ 無 ） ・ 公表の方法 ： 愛媛大学ホームページに掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 通報件数 (年0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 周知の方法 <p>愛媛大学教職員向けポータルサイト内に「相談窓口」のページを設け、様々な事案毎の相談窓口及び連絡先等を掲載している。その中に、医療安全管理の適正な実施に関する情報提供を受け付ける相談窓口の設置について掲載しており、加えて、本件について事務連絡メールを全教職員に送付し周知を図っている。</p>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>本院の目的・目標，果たすべき役割及び実績等をまとめた冊子「医学部／附属病院概要」を毎年作成・発行するとともに，電子BOOKとしてオリジナルホームページにも掲載している。</p> <p>また，DPCデータによる病院指標も公表し，当院の特徴や急性期医療の現状を理解していただくよう情報発信に務めている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>中央診療施設において、複数診療科等を組み合わせたセンターによる診察を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 周産母子センター（産婦人科、小児科）2. 小児医療総合センター（小児科、心臓血管・呼吸器外科）3. 呼吸器センター（第二内科、心臓血管・呼吸器外科）4. 脊椎センター（整形外科、脳神経外科）5. 睡眠センター（第二内科、耳鼻咽喉科）6. 循環器病センター（第二内科、心臓血管・呼吸器外科）7. 緩和ケアセンター（腫瘍センター、麻酔科蘇生科）8. 認知症疾患医療センター（精神科、臨床薬理神経内科、脳神経内科）9. 子どものこころセンター（精神科、小児科）10. 炎症性腸疾患（IBD）センター（第三内科、消化器腫瘍外科）	